

西宮市の景観は、個性豊かな地域の景観が集まってつくり上げられています。

ここでは、各地域の個性をいかした景観形成を進めるために、地域ごとに「景観の成り立ち」、「景観の特徴」、「景観の課題」、「景観形成の考え方」、「景観構造」、「景観資源」を整理します。

● 地域分け



※地域分けは、第5次西宮市総合計画参考資料地域別アウトラインを参考にしています。

※「景観構造」では、西宮市全体の景観構造（1-2（3）参照）に、地域レベルの景観軸、景観核・景観拠点、眺望ポイントを加えて設定します。

※「景観資源」は、地域レベルの景観づくりの考え方（大切にしていける景観資源、その景観を守り、育み、いかすために必要な視点等）を共有し、地域固有の景観に対する誇りや愛着の形成を図るとともに、景観まちづくりの取り組みを展開するためのきっかけとしていくために設定するものです。したがって、都市景観形成建築物や文化財等の景観上重要な建築物、巨樹・巨木や社叢、公園・緑地等の自然資源、景観核等への良好な眺望を享受できる視点場等、各地域の景観を特徴づける景観資源を次のとおり類型化して設定します。

景観資源の類型	対象となる景観資源
・地形的ランドマーク	独立峰（甲山、丸山）
・親水空間	港・港湾、河川・溪谷、湖沼・池等
・公共空間の緑	公園・緑地、緑道、街路樹等
・保護樹木と境内林・樹林等	保護樹木、天然記念物の樹木・樹林、境内林、樹林、農地等
・歴史的建造物	寺社、旧跡・遺跡、古民家、近代和風・洋風建築、近代建造物（橋梁等）等
・文教施設	文化施設、大学等の教育施設の建築物等
・現代建造物	景観の拠点やランドマークとなる現代の建築物・建造物（橋梁等）等
・歴史的まちなみ	旧街道集落や旧農村集落等
・特徴的なまちなみ	緑豊かな住宅地のまちなみ、都市核としてのまちなみ等
・眺望ポイント	西宮市の景観特性や各地域の景観の特徴を感じられる視点場

(1) 本庁北西地域

■ 景観の成り立ち

基盤となる豊かな「自然」

北部には六甲山系が連なり、六甲山系から伸びる山麓・丘陵が南部まで広がっています。全域が山から山麓に至る傾斜地であり、東部には夙川が流下しています。

受け継がれてきた「歴史・文化」

600～700年ころの創建と伝わる越木岩神社は、境内や周辺の磐座群を祀り、境内の社叢は県の天然記念物に指定されています。

明治から大正時代にかけて国鉄、阪急神戸線・甲陽線が開通し、苦楽園、香櫨園等のレクリエーション施設が相次いで開発されました。その後、これらの施設は住宅地として生まれ変わり、戦後には周辺地域においても住宅地が開発され、阪神間屈指の住宅地として発展しました。

現在のわたしたちの「暮らし・営み」

山地に位置する鷲林寺地区の旧集落にはまとまった農地が残り、丘陵・山麓には戸建てで中心の緑豊かな住宅地が広がります。阪急夙川駅や苦楽園口駅周辺には生活拠点となる商業業務地が形成されています。

法規制では、地域北部は瀬戸内海国立公園に指定されて自然環境が保全されており、同区域を含む山地の全域及び山麓の住宅地の大半が風致地区に指定されています。住宅地のなかでも、鷲林寺南地区、剣谷地区、夙川霞・松園地区、苦楽園五番町くすのき台地区は地区計画が定められており、苦楽園五番町くすのき台地区は景観重点地区にも指定されています。

■ 景観の特徴

苦楽園や雲井町、殿山町、鷲林寺南地区等の、六甲山系の山麓部から阪急夙川駅周辺にかけて広がるゆとりある住宅地は、西宮を代表する住宅景観を形成しています。また、鷲林寺地区の旧集落にはまとまりのある農地が広がり、市域のランドマークとなる甲山を北側から望むことができる貴重な空間を形成しています。

市域の景観軸でもある夙川の河川敷緑地や苦楽園橋等は北部の六甲山系や甲山（甲東地域）を望む視点場になっています。また、北部の剣谷橋、芦有ドライブウェイ東六甲展望台、北山公園等も、市街地の広がりや海へと連なる夙川河川敷緑地の緑の軸、点在する境内林や樹林等を眺めることができる視点場となっています。

地域内には、越木岩神社の境内林や夙川カトリック教会等の歴史的建造物がランドマークになるとともに、山手線のケヤキや阪急苦楽園口駅前のイチョウ、中新田川のサクラ等の並木や河川が地域の景観の軸となっています。



苦楽園五番町くすのき台地区
【景観重点地区】



北山公園（緑洋展望台）からの眺め



越木岩神社の境内林と参道



阪急苦楽園口駅前のイチョウ並木

■ 景観の課題

住宅景観においては、宅地の細分化がすすみ、ゆとりある住宅街の風情が失われていくとともに、道路側に庭木や生垣等の緑が見られない建築物等が増加し、うるおいに乏しいまちなみが所々で見られるようになっていきます。また、阪急夙川駅及び苦楽園口駅の駅前景観については、緑に乏しく、高彩度色の広告物もみられる等、地域の特徴を感じとり難いものとなってきています。

この他、鷲林寺地区では資材置場、市民農園の倉庫や柵等が雑然とした印象を与える場所も見られるため、広がりのある田園景観や甲山への眺望景観を保全するための修景等が求められます。

■ 景観形成の考え方

景観形成の方向性（テーマ）

- 豊かな自然の緑をまもり、そだてます
- 丘陵・山麓部や夙川周辺の緑をいかした住宅景観をまもり、つくり、そだてます
- 地域の特徴を感じられる駅前景観をつくり、そだてます

配慮の方向性

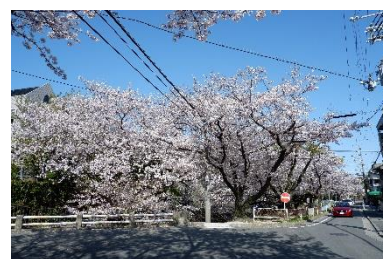
- ・ 開発当時のまちなみを伝える御影石の石積みや良好な生垣、庭木等を保全するとともに、道路側の緑や石積みと調和する外構意匠を用いる等により、緑豊かなゆとりある住宅景観を保全育成します。
- ・ 中高層住宅は、前面道路から後退し、道路側を緑化する等により、圧迫感の軽減や周辺のまちなみとの連続性に配慮します。また、各所からの山並みへの眺めを遮らないよう配慮します。
- ・ ランドマークとなる樹林や巨樹、歴史的な風情を醸し出す建築物等の景観資源を適切に保全するとともに、景観資源との調和に配慮し、見通しや象徴的に眺められる景観の保全を図ります。
- ・ 緑の軸を形成する並木や公園・緑地は、適切な維持管理を行い、緑豊かなまちなみづくりを推進します。
- ・ 苦楽園口通や山手線は、沿道敷地の緑化を推進し、各路線の並木と沿道の緑が一体となった緑豊かな道路景観軸の形成を図ります。
- ・ 阪急夙川駅及び苦楽園口駅の駅前や周辺は、樹種等を設定した緑化や、建築物・広告物のデザインの統一性・関連性の創出等を通じて、地域の顔となる駅前景観の形成を図ります。
- ・ 資材置場では、集積場所の工夫、緑や塀による遮蔽等によって周辺の景観への影響を抑えます。
- ・ 市民農園等は、柵や倉庫等の形態・意匠・色彩や器具類の保管方法等について、周辺の景観に配慮したものとします。



夙川公民館と片鉾池



夙川カトリック教会
【都市景観形成建築物】



中新田川のサクラ並木



樋之池公園のマツ

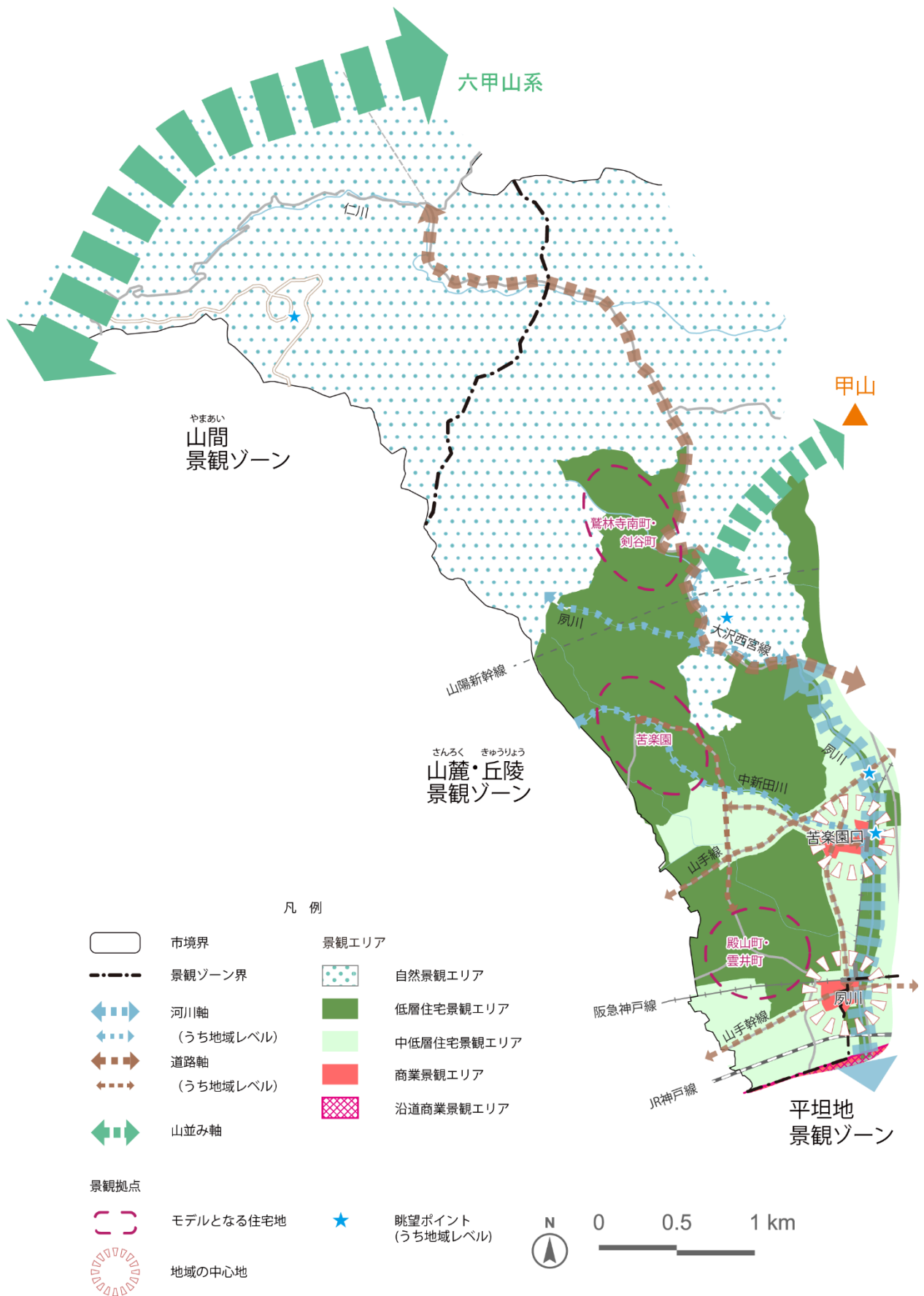


芦有東六甲展望台からの眺望

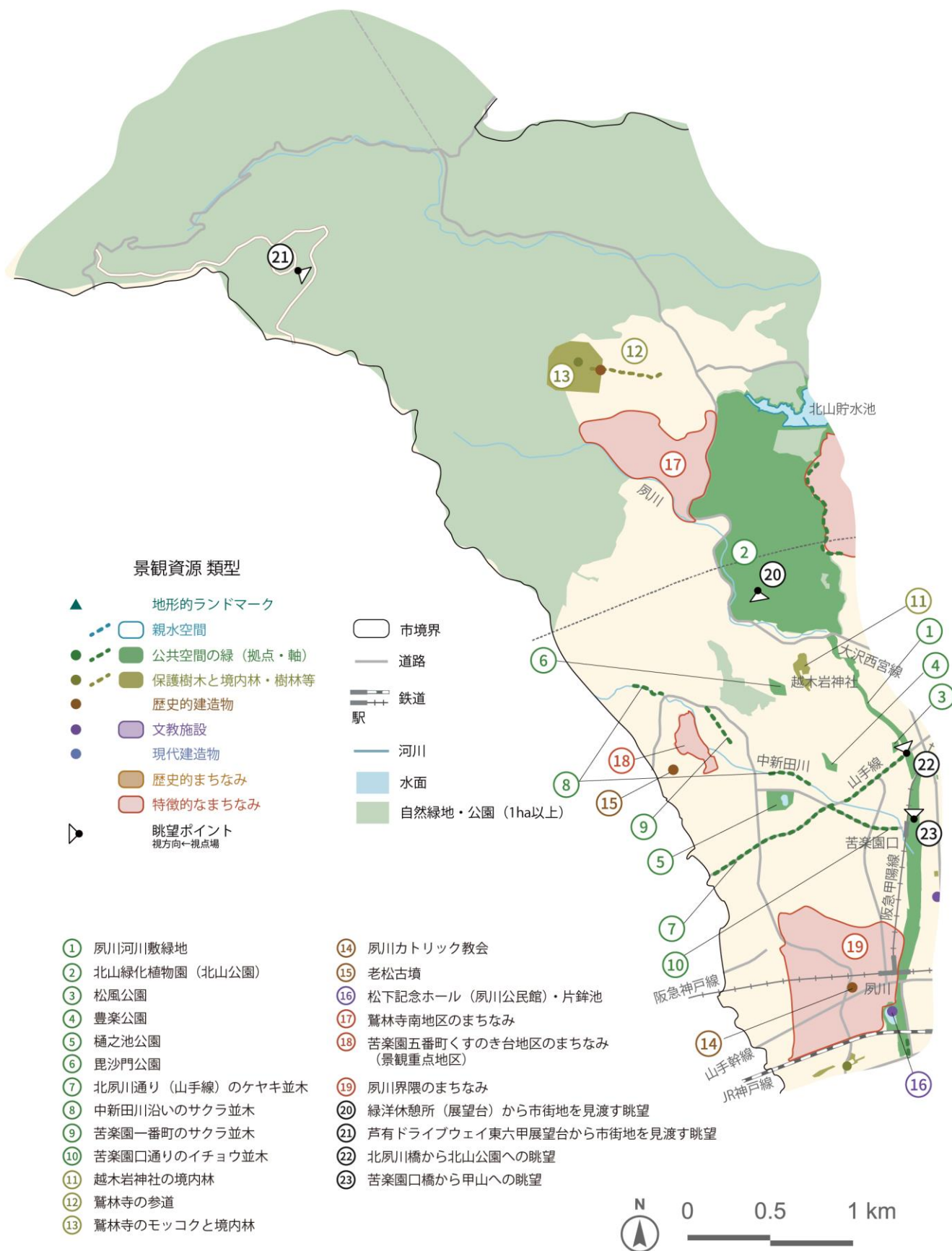


鷲林寺の参道

■ 景観構造



■ 景観資源



(2) 本庁北東地域

■ 景観の成り立ち

基盤となる豊かな「自然」

北部は、六甲山系の前山にあたる甲山から広がる丘陵であり、南へと徐々に傾斜を緩めながら丘陵・山麓が続き、北東から南西へと斜めに横切る崖線を挟んで南部には平坦地が広がっています。西には夙川が東に東川が流下し、丘陵・山麓には北山貯水池やニテコ池等の池が点在します。

受け継がれてきた「歴史・文化」

『日本書紀』に創建がみえる廣田神社は、西宮で最も古い神社であり、江戸時代には門前に市場町を抱え、西国街道の要衝として栄えました。

明治から大正時代にかけて国鉄、阪急神戸線・甲陽線が開通するなか、北部の大池周辺には甲陽園の行楽地が開発され、南部には耕地整理による広大な住宅地が形成されました。甲陽園は、その後住宅地となり、戦後には甲陽園北部の甲陽園目神山地区も開発され、関西でも著名な住宅地として発展してきました。

現在のわたしたちの「暮らし・営み」

地域の大半が大正期以降に開発された住宅地として、多くの人々の暮らしの場となっており、阪急甲陽園駅やJR西宮駅の周辺には地域住民の生活拠点となる商業業務地が形成されています。阪急神戸線以北の国道171号沿道には、沿道型の商業業務施設が数多く立地しています。

また、甲陽園やニテコ池周辺、高座町、愛宕山が風致地区に指定されています。甲陽園目神山地区、若江・神園地区、夙川駅北東地区、安井地区、大畑地区には地区計画が定められており、甲陽園目神山地区と甲陽園目神山東地区は景観重点地区にも指定されています。

■ 景観の特徴

六甲山系の緑を背景に、大正時代以降に開発された甲陽園に由来する住宅地や山麓斜面の緑と調和した甲陽園目神山の住宅地、ニテコ池周辺の住宅地をはじめとした、緑豊かな落ち着いたある住宅地が広がり、西宮を代表する住宅景観を形成しています。

市域の景観軸でもある夙川の河川敷緑地やニテコ池、大池、新池の各池畔や大沢西宮線等の地域内各所から甲山を象徴的に望むことができます。また、甲山の西に近接する北山貯水池は海へと続く市街地の広がりを望むことができる視点場となっています。

地域内にはランドマークとなる廣田神社の境内林や満池谷墓地の樹林等の緑、軸となる廣田神社参道や東川沿い、市役所前線の並木、浦家住宅や旧山本家住宅等の歴史的建造物が地域の景観の風格を高めています。また、大沢西宮線のまちかど広場等は市民の景観形成活動の場となっています。



甲陽園のまちなみ【景観重点地区】



ニテコ池から甲山への眺め



東川沿いのサクラ並木と甲山への眺め



廣田神社の参道

■ 景観の課題

宅地の細分化や建替え等により、歴史ある住宅景観が失われつつあります。また、道路側に庭木や生垣等の緑が見られない建築物等が増加し、うるおいに乏しいまちなみが所々で見られるようになってきています。

一方、景観軸となる道路のなかには、緑量が少なく潤いに欠けるものや、さまざまな規模・形態・意匠・色彩の沿道の建築物や屋外広告物が雑然とした印象を与えるものも見られます。

また、宅地開発等に伴い斜面緑地が減少しつつあり、良好な居住環境や眺望景観を確保するための斜面緑地の保全が課題となっています。

■ 景観形成の考え方

景観形成の方向性（テーマ）

- 甲山への眺めをまもり、そだてます
- 歴史ある住宅地のおもむきをまもり、そだてます
- 自然の水辺と緑をいかした景観を
まもり、つくり、そだてます

配慮の方向性

- ・歴史ある住宅地における敷地内の緑や樹木の保全等に努めるとともに、斜面緑地や街路樹の保全・育成を図り、庭木や生垣、石積み等が連なる歴史と潤いを感じられる緑豊かな住宅景観を継承します。
- ・中高層住宅は、前面道路から後退し、道路側を緑化する等により、圧迫感の軽減や周辺のまちなみとの連続性に配慮します。また、地域内の主要な眺望ポイントからの甲山への眺めや、各所からの山並みへの眺めを遮らないよう配慮します。
- ・ランドマークとなる樹林や巨樹、歴史的な風情を醸し出す建築物等の景観資源を適切に保全するとともに、景観資源との調和に配慮し、見通しや象徴的に眺められる景観の保全を図ります。
- ・水と緑の景観資源であり、甲山への良好な視点場となる池の周辺では、水面が創り出す広がりのある眺めを損なわないよう、建築物等の規模・配置、形態・意匠・色彩等に配慮します。
- ・緑の軸を形成する東川沿いの桜並木や夙川の河川敷緑地等は、適切な維持管理を行い、緑豊かなまちなみづくりを推進します。
- ・市役所前線や国道 171 号及び JR 西宮駅周辺の拠点エリアでは、街路樹による緑化を推進するとともに、沿道の建築物や屋外広告物の形態・意匠・色彩等の誘導と緑化を推進し、緑豊かでまとまりのある道路景観軸の形成を図ります。
- ・阪急甲陽園駅の駅前や周辺は、樹種等を設定した緑化や、建築物・広告物のデザインの統一性・関連性の創出等を通じて、地域の顔となり、地域の特徴を反映した駅前景観の形成を図ります。



北山山荘



旧山本家住宅【都市景観形成建築物】



夙川のサクラ（苦楽園口橋からの眺め）



南郷町のまちなみ

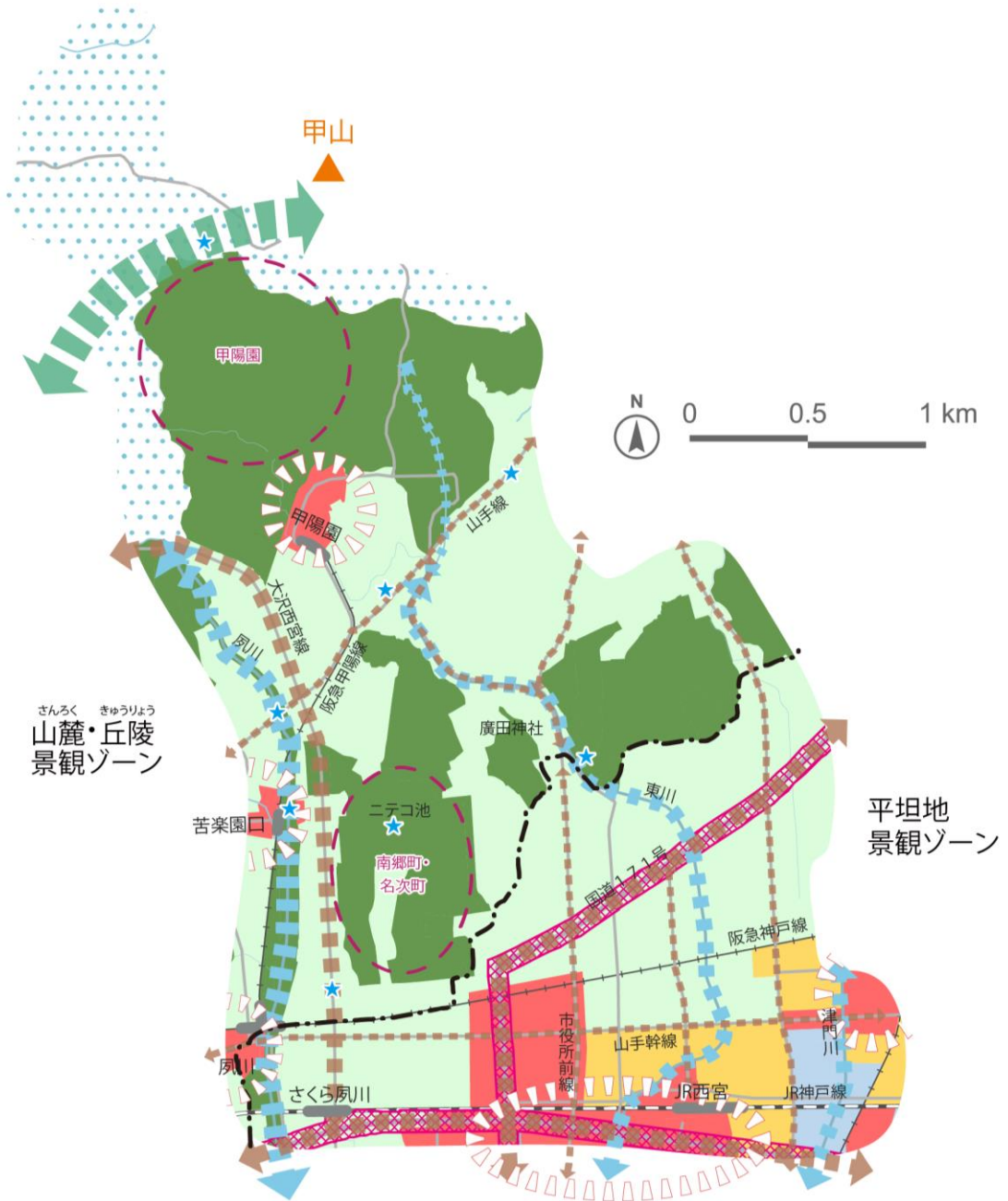


浦家住宅【都市景観形成建築物】



名次町のクロマツ

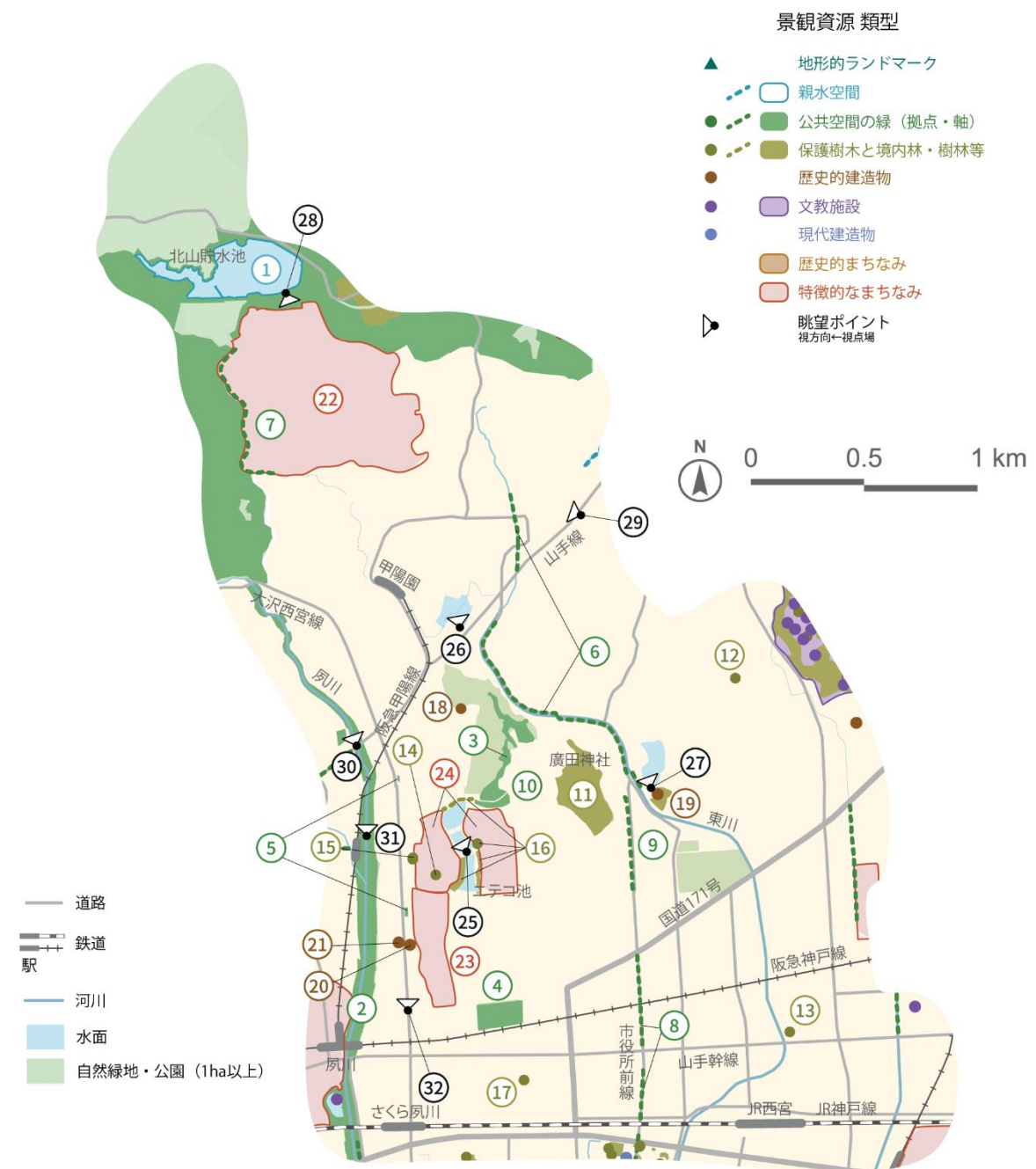
■ 景観構造



凡 例

市境界	景観ゾーン界	景観エリア	
河川軸 (うち地域レベル)	眺望ポイント (うち地域レベル)	自然景観エリア	商業景観エリア
道路軸 (うち地域レベル)	モデルとなる住宅地	低層住宅景観エリア	産業住宅景観エリア
山並み軸	地域の中心地	中低層住宅景観エリア	沿道商業景観エリア
		都市型住宅景観エリア	

■ 景観資源



- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 北山貯水池 ② 夙川河川敷緑地 ③ 満池谷墓地・越水浄水場の樹林 ④ 西田公園 ⑤ 大沢西宮線の「まちかど広場」 ⑥ みたらし通り・東川沿いのサクラ並木 ⑦ やまびこ通り・水分谷川沿いのサクラ並木 ⑧ 市役所前線のケヤキ並木 ⑨ 廣田神社の参道 ⑩ 西宮震災記念碑公園 ⑪ 廣田神社のコバノミツバツツジ群落と境内林 ⑫ 愛宕山基地のクロガネモチ | <ul style="list-style-type: none"> ⑬ 神明八幡神社のクスノキ ⑭ 名次町のクロマツ ⑮ 市営名次町住宅のクスノキ ⑯ ニテコ池池畔の樹林 ⑰ 常磐町の本松 ⑱ 満池谷層の植物遺体包含層 ⑲ 具足塚古墳 ⑳ 浦家住宅 ㉑ 山本清記念財団会館（旧山本家住宅） ㉒ 甲陽園目神山・甲陽園目神山東地区のまちなみ（景観重点地区） ㉓ 南郷町のまちなみ | <ul style="list-style-type: none"> ㉔ ニテコ池周辺のまちなみ ㉕ ニテコ池から甲山への眺望 ㉖ 大池から甲山への眺望 ㉗ 新池から甲山への眺望 ㉘ 北山貯水池から市街地を見渡す眺望 ㉙ 苦楽園、甲陽園の住宅地一帯を見上げる眺望 ㉚ 北夙川橋から北山公園への眺望 ㉛ 苦楽園口橋から甲山への眺望 ㉜ 大沢西宮線から甲山への眺望 |
|---|---|---|

(3) 本庁南西地域

■ 景観の成り立ち

基盤となる豊かな「自然」

夙川が地域中央の西側を、東側を東川が流下します。北部はこれらの河川によって形成された沖積平野が広がり、南部河口の御前浜には自然海岸が残っています。さらに南部の海域には埋立地が広がっています。

受け継がれてきた「歴史・文化」

平安時代以前は入海が存在し、古くから漁業が営まれていました。

陸地化が進むにつれ、港が開かれ、西国街道が通って交通の要衝として賑わうようになり、西宮戎神社は漁業、交易商業の神として信仰を集め、門前町・宿場町として発展しました。江戸時代には「宮水」を使用した酒造りの町としても栄えました。御前浜には、江戸時代末期に京都護衛のために築かれた西宮砲台が残り、瀬戸内海の航路の要地でもあったことを物語っています。

明治時代に、国鉄、阪神電鉄が開通したことで住宅地化が進むとともに、工業地帯が形成されてきました。当時、酒蔵が建ち並ぶ久保町付近が西宮の中心であり、西宮町役場も位置していました。市制施行や国道2号の建設を契機に、酒造家の寄付を受け、昭和3年、六湛寺町の共同墓地を移転した跡地に市役所庁舎が建設されました。第二次大戦では地域の大半が焼失しましたが、戦災復興区画整理により復興し、西宮の行政と産業の中心地としての役割を担い続けています。

現在のわたしたちの「暮らし・営み」

国道2号沿道を中心に商業業務地区が形成され、阪神西宮駅やJR西宮駅周辺は商業・業務施設、市役所等の公共施設が集積しています。国道43号以南は酒造業等が集積していますが、阪神淡路大震災後、工場跡地の大規模な敷地に集合住宅や店舗が増加し、住宅、商業、産業が混在した地域となっています。臨海部には大規模な工場が集積し、埋立地の西宮浜には、西部に阪神淡路大震災の住宅復興拠点のひとつである西宮マリナパークシティが、東部には産業団地が形成されています。

また、夙川沿いと御前浜公園周辺が風致地区に指定されており、森具地区とJR西宮駅南西地区には地区計画が定められています。

■ 景観の特徴

JR東海道線から御前浜、西宮浜へと、住宅、商業、産業の混在する市街地景観が続いており、夙川周辺及び西側エリアでは落ち着いた住宅景観が見られます。東側エリアでは、駅周辺の中心市街地の景観や、酒づくりの町を偲ばせる酒蔵関係の施設が、地域の景観を特色づけています。このような多様な土地利用がおりなす景観のなかにあつて、夙川の河川敷緑地や御前浜公園、市役所周辺の並木や樹林、西宮神社の境内林等、豊かな自然がまとまって見られ、緑の拠点や軸を形成していることも特徴です。

御前浜公園や西宮浜総合公園等は、海域や山並みを望む良好な視点場となっています。また、地域内に残る西宮砲台や酒造関係の建造物、旧多聞ビルディング等は、地域の歴史を物語る景観のアクセントとなっています。



白鷹緑水苑



白鹿記念酒造博物館



西宮砲台と御前浜公園



西宮マリナパークシティのサクラ並木

■ 景観の課題

震災後、工場跡地等への共同住宅や大規模小売店舗の立地、住宅地における中高層住宅の立地が進み、多様な用途・規模による調和が感じられない景観が見られるようになるとともに、酒蔵地帯の特徴ある景観が失われてきています。

また、国道2号沿いや商業地区を中心に高層の建築物が増加しており、周辺のまちなみ景観との調和や眺望景観への配慮が求められます。特に、JR西宮駅、阪神西宮駅周辺や市役所周辺は、西宮の顔となる地域として、都市イメージの向上につながるよう、より一層魅力的な景観形成も求められます。

■ 景観形成の考え方

景観形成の方向性（テーマ）

- 都市核にふさわしい賑わいと魅力をつくります
- 夙川の緑や海浜の開放感をいかした住宅地を
まもり、つくり、そだてます
- 地域の歴史を伝えるまちなみを
まもり、つくり、そだてます

配慮の方向性

- ・西宮マリナパークシティや夙川沿い等の緑豊かな住宅地では、敷地内の緑化と適切な維持・管理に努め、並木や公園の緑と一体となった緑豊かな住宅景観を保全・育成します。
- ・酒蔵地帯については、酒蔵関連の景観資源を活用し、来訪者も意識した酒蔵のイメージを感じられる景観の形成を図ります。
- ・市役所周辺地区では、歩道と一体化した敷地の整備や低層部を開放的なデザインとする等、来街者を温かく迎え入れるしつらえとします。
- ・ランドマークとなる境内林や樹林、巨樹を保全するとともに、これらへの眺めを保全します。
- ・緑の軸を形成する市役所前線のクスノキ並木や夙川の河川敷緑地等は、適切な維持管理を行い、緑の拠点やまちなみづくりを推進します。
- ・西宮砲台、旧辰馬喜十郎住宅等の地域の歴史を物語る建造物を適切に保存するとともに、周辺建築物、屋外広告物等については、歴史的な建造物との調和を図ります。
- ・建築物、工作物、屋外広告物等は、西宮大橋等からの眺望に配慮した配置、規模、色彩等として、眺望景観の保全を図ります。
- ・産業・商業施設と住宅との調和を図るとともに、幹線沿道の緑化と屋外広告物のコントロールにより、潤いがある整った沿道景観を創出します。



西宮神社の境内林



松原神社と喜多向稲荷社の境内林



旧多聞ビルディング



旧辰馬喜十郎住宅

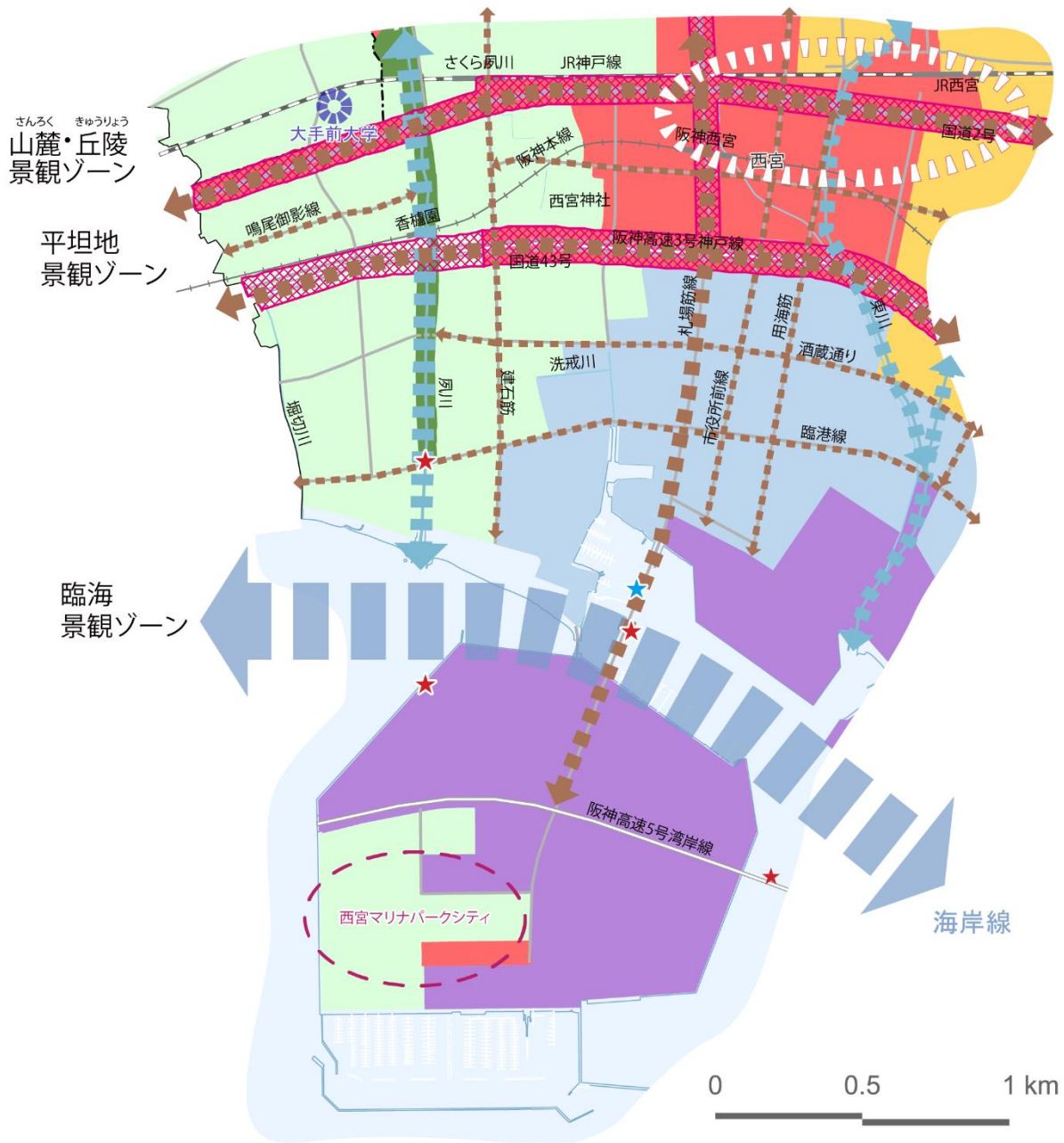


宮水井戸場



新西宮ヨットハーバー

■ 景観構造



凡例

- | | | | | | |
|---|-----------|---|------------|---|-----------|
|  | 市境界 |  | 低層住宅景観エリア |  | 景観拠点 |
|  | 景観ゾーン界 |  | 中低層住宅景観エリア |  | 地域の中心地 |
|  | 河川軸 |  | 都市型住宅景観エリア |  | 緑豊かな文教地 |
|  | (うち地域レベル) |  | 商業景観エリア |  | モデルとなる住宅地 |
|  | 道路軸 |  | 産業住宅景観エリア |  | 眺望ポイント |
|  | (うち地域レベル) |  | 流通産業景観エリア |  | (うち地域レベル) |
|  | 海岸軸 |  | 沿道商業景観エリア | | |

■ 景観資源



(4) 本庁南東地域

■ 景観の成り立ち

基盤となる豊かな「自然」

西側に東川とその支流の津門川、東側に新川が流下し、東川によって形成された沖積平野の平坦地が広がっています。

受け継がれてきた「歴史・文化」

古代以前、西宮の海岸線は現在よりも北あり、その入江は「武庫水門（ムコノミナト）」と呼ばれ、大和朝廷にとって重要な港だったとされています。現在に残る地名「津門」はその港の入口を意味します。

江戸時代には「宮水」を使用した酒づくりの町として栄え、旧今津港には樽廻船が寄港してにぎわいました。今津灯台は、江戸時代後期に酒造家であった長部家によって、航行の安全を願って建設されたもので、現存する灯台は1868年に再建されたものです。

明治末期に、国鉄、阪神電鉄が開通したことで住宅地化が進むとともに、工業地帯が形成されましたが、地域南部は第二次大戦で焼失し、戦災復興区画整理により復興されました。

現在のわたしたちの「暮らし・営み」

阪急・阪神今津駅周辺では商業施設が集積し、臨港線等の幹線道路沿いにも商業施設が立地しており、駅北側後背地には低層を主体とする住宅地があります。津門地区には食品関連の工場と店舗・住宅が混在し、酒蔵通り以南は工場、住宅、店舗が混在しています。阪神淡路大震災後、工場跡地の大規模な敷地に集合住宅や店舗が建設され、住宅地、商業地、産業地が混在する地域となっています。

また、津門大塚地区、甲子園浜田地区、甲子園三保地区、甲子園浦風地区、甲子園洲島地区に地区計画が定められており、津門大塚地区は景観重点地区にも指定されています。

■ 景観の特徴

JR 東海道線から海沿いの今津港へと住宅、商業、産業の混在する市街地景観が続いています。そのなかで、阪急・阪神今津駅周辺や阪神甲子園駅周辺の市街地景観や酒づくりの町を偲ばせる酒造業の工場景観等、賑わいと活力を感じられる地域の景観を創出しています。また、津門川、新川とそのサクラ並木が景観軸となり、津門神社や昌林寺、日吉神社、上野神社、浄願寺等の境内林が緑のランドマークとなって、地域の景観に潤いを与えています。

酒蔵通の大関恒和蔵や臨海部のランドマークとなる今津灯台等は酒づくりの歴史を象徴する景観資源となっています。また、地元有志が建設費の大半を寄付して建てられた六角堂（今津小学校）は、歴史的価値の高い洋風建築の校舎として、地域の景観のアクセントとなるとともに、古くからの地域住民の教育への熱意を伝え、地域への誇りや愛着を育む重要な景観資源となっています。



大関恒和蔵（酒蔵通り側）



六角堂（今津小学校）
【都市景観形成建築物】



今津灯台



上野神社の境内林

■ 景観の課題

震災後、工場跡地等への共同住宅や大規模小売店舗の立地や、住宅地における中高層住宅の立地が進み、多様な用途・規模による調和が感じられない景観が見られるようになるとともに、酒蔵地帯の特徴ある景観が失われてきています。

また、国道2号沿いや商業地区を中心に中高層建築物が増加しており、周辺のまちなみ景観との調和や眺望景観への配慮が求められます。特に、阪急・阪神今津駅周辺は、緑に乏しく、高彩度色の広告物もみられる等、地域の特徴を感じとり難い景観となっていることから、地域住民の生活拠点として、地域の顔となる良好な景観の形成が求められます。

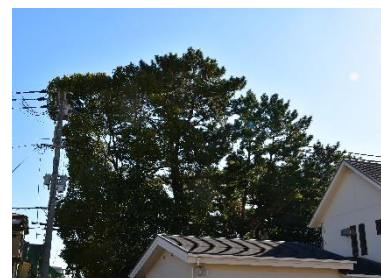
■ 景観形成の考え方

景観形成の方向性（テーマ）

- 自然の水辺と緑をまもり、そだてます
- 酒づくりの町の歴史を感じられる景観を
まもり、つくり、そだてます
- 地域の歴史・文化・自然資源をまもり、そだてます

配慮の方向性

- ・敷地内の緑化と緑の維持管理に努め、境内林や並木と一体となった緑豊かな住宅景観を形成します。
- ・酒蔵地帯については、酒蔵関連の景観資源を活用し、来訪者も意識した酒蔵のイメージを感じられる景観の形成を図ります。
- ・津門大塚地区の景観重点地区では、工場跡地の新たな市街地景観の形成を図ります。
- ・ランドマークとなる境内林や樹林、巨樹を保全するとともに、これらへの眺めを保全します。
- ・緑の軸を形成する津門川や新川のサクラ並木や、まとまりのある緑の拠点となる津門中央公園は、適切な維持管理を行うとともに、地域住民の景観形成のきっかけづくりや景観形成活動の場として積極的に活用します。
- ・阪急・阪神今津駅周辺の建築物、工作物、屋外広告物の景観誘導や緑化を進め、地域の顔となる景観づくりに努めます。
- ・今津灯台や六角堂等、地域の歴史的景観資源を適切に保全します。
- ・産業・商業施設と住宅との調和を図るとともに、幹線沿道の緑化と屋外広告物のコントロールにより、潤いがある整った沿道景観を創出します。



津門神社の境内林



日吉神社の境内林



浄願寺の境内林



津門川沿いのサクラ並木

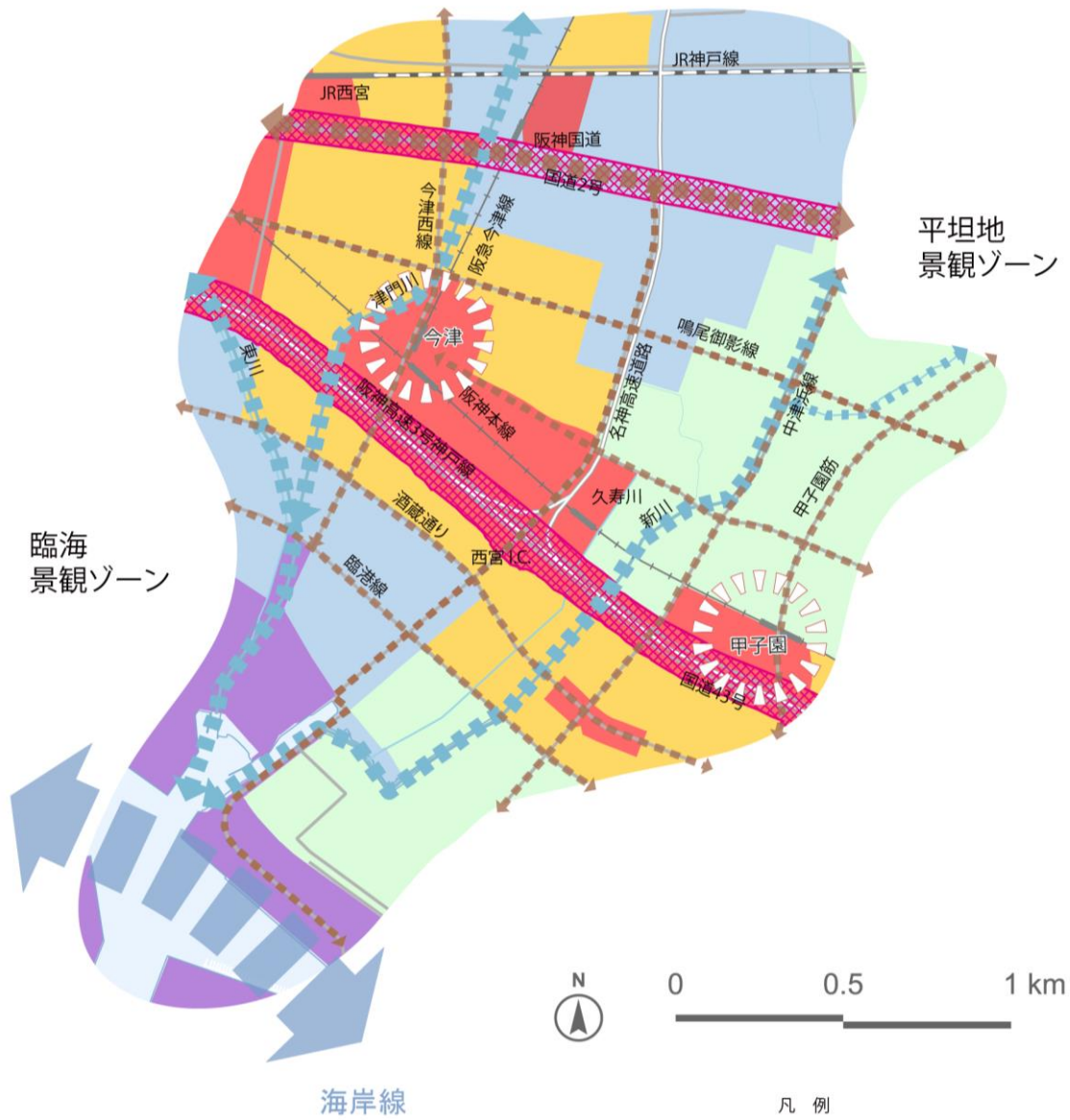


新川沿いのサクラ並木



津門中央公園

■ 景観構造



- 凡 例
- | | | | |
|--|-----------|--|------------|
| | 市境界 | | 景観エリア |
| | 景観ゾーン界 | | 中低層住宅景観エリア |
| | 河川軸 | | 都市型住宅景観エリア |
| | (うち地域レベル) | | 商業景観エリア |
| | 道路軸 | | 産業住宅景観エリア |
| | (うち地域レベル) | | 流通産業景観エリア |
| | 海岸軸 | | 沿道商業景観エリア |
| | 景観拠点 | | |
| | 地域の中心地 | | |

■ 景観資源



景観資源 類型

- | | | |
|-----------------------|-------------------|------------------------|
| ▲ 地形的ランドマーク | — 高速道路 | ① 津門中央公園 |
| □ 親水空間 | — 道路 | ② 津門川沿いのサクラ並木 |
| ● 公共空間の緑 (拠点・軸) | — 鉄道 | ③ 新川沿いのサクラ並木 |
| ● 保護樹木と境内林・樹林等 | ■ 駅 | ④ 東川沿いのサクラ・エノキ並木 |
| ● 歴史的建造物 | — 河川 | ⑤ 浄願寺の境内林 |
| ● 文教施設 | ■ 水面 | ⑥ 津門神社の境内林 |
| ● 現代建造物 | ■ 自然緑地・公園 (1ha以上) | ⑦ 日吉神社の境内林 |
| ■ 歴史的まちなみ | | ⑧ 上野神社の境内林 |
| ■ 特徴的まちなみ | | ⑨ 今津灯台 |
| ▶ 眺望ポイント
視方向 ← 視点場 | | ⑩ 六角堂 (今津小学校) |
| | | ⑪ 大関恒和蔵 (景観賞) |
| | | ⑫ 甲子園筋のまちなみ |
| | | ⑬ 津門大塚地区のまちなみ (景観重点地区) |

(5) 鳴尾地域

■ 景観の成り立ち

基盤となる豊かな「自然」

鳴尾地域は武庫川とかつての枝川が形成した三角州にあたり、大正時代の武庫川改修工事により枝川・申川が廃川となり、平坦地が広がりました。海浜部の多くは人工海岸となっていますが、甲子園浜には自然の砂浜・干潟・磯が残ります。海域には、平成4年に鳴尾浜、平成9年に甲子園浜の埋立地が完成しました。

受け継がれてきた「歴史・文化」

かつては鳴尾地域の多くは海であり、武庫川河口の堆積作用とともに新田開発が進められ、現在の地形になったのは平安時代以降です。

大坂と西宮を結ぶ中国街道が地域の中央を東西に横断し、江戸時代には、街道のはずれに鳴尾村をはじめとした集落が点在していました。

明治後期に阪神電鉄沿線で宅地開発が始まると、当地域には競馬場やゴルフ場等の娯楽施設が立地しました。大正時代には枝川と申川の廃川跡に甲子園球場が建設されるとともに、民間の宅地開発（甲子園）やその周辺地域での耕地整理が進められて市街地が形成されました。

戦後には、浜甲子園団地、武庫川団地等の大規模団地の開発が進められ、武庫川女子大学や兵庫医科大学等の教育施設も立地しました。

現在のわたしたちの「暮らし・営み」

住宅地主体の地域であり、阪神甲子園駅北側や甲子園浜に面する区域は低層住宅地、沿岸には大規模住宅団地が立地しています。阪神甲子園駅周辺には甲子園球場や商業業務施設、阪神鳴尾・武庫川女子大前駅周辺には商業施設や行政サービス施設、教育施設が立地し、地域の拠点となっています。鳴尾浜や甲子園浜には流通系を中心とした産業施設が集積しています。

また、武庫川沿いの臨港線以北が風致地区に指定されており、甲子園一番地区、甲子園二・三番地区、甲子園五番・花園地区、上鳴尾地区、里中地区、浜甲子園地区、浜甲子園団地に地区計画が定められています。浜甲子園団地の戸建住宅地区は、景観重点地区に指定されています。甲子園浜海浜公園の干潟は、鳥獣保護区・特別保護地区に指定され、その一部は生物保護地区として渡り鳥の餌場確保が図られています。

■ 景観の特徴

三角州に広がる市街地には、大正時代に開発された歴史ある住宅地や戦後に開発された大規模団地等の住宅景観、地域を代表する景観資源でもある武庫川女子大学等の文教施設景観がみられます。また、甲子園球場周辺や阪神鳴尾・武庫川女子大前駅周辺には地域の生活拠点としての賑わいのある景観が形成されるとともに、全国的に知られる甲子園球場は、地域の景観のランドマークとなり、特徴的な景観が形成されています。

一方、埋立地の甲子園浜と鳴尾浜には産業景観が見られ、海辺の甲子園浜海浜公園や鳴尾浜臨海公園、武庫川等は、豊かな自然と触れ合える場であるとともに、海や山並み等の広がりのある眺望景観の視点場となっています。



枝川町のまちなみ【景観重点地区】



枝川町のメタセコイア並木



武庫川女子大学



甲子園浜海浜公園（ふるさと海岸地区）

■ 景観の課題

大規模敷地への共同住宅や大規模小売店舗の建設等の土地利用転換がみられ、地区全体に中高層の共同住宅が増加し、低層住宅と混在しています。そのなかで緑化が不十分であること等により、潤いに欠けるまちなみが見られます。

一方、地区内には文教住宅都市を代表する文教施設や、ゆとりある住宅景観が見られるとともに、全国的にも著名な阪神甲子園球場が位置することから、これらの資源を活用したより一層の景観形成が求められます。

■ 景観形成の考え方

景観形成の方向性（テーマ）

- 緑豊かで落ち着いたある住宅地を
まもり、つくり、そだてます
- 川や海浜の広がりある風景をまもり、そだてます
- 甲子園球場や大学による活気と魅力ある
まちなみをつくります

配慮の方向性

- ・敷地内の緑化と緑の維持管理に努め、境内林や武庫川河川敷緑地等と一体となった緑豊かな住宅景観を形成します。
- ・低層住宅を中心とする地区における中高層建築物の建築等にあたっては、壁面後退と緑化による圧迫感の軽減、まちなみの連続性の確保等により、周辺の景観や居住環境との調和に配慮します。
- ・ランドマークとなる境内林や樹林、巨樹を保全するとともに、これらへの眺めを保全します。
- ・緑の軸となる甲子園筋のタイワンプウや鳴尾新川筋のサクラ等の並木や、まとまりのある緑の拠点となる枝川町のブルーバール等の公園の緑を適切に保全・育成するとともに、地域住民の景観形成のきっかけづくりや景観形成活動の場として活用します。
- ・建築物、工作物、屋外広告物等は、臨海部の公園や橋、道路からの眺望に配慮した配置、規模、色彩等として、眺望景観を保全活用したまちづくりに努めます。
- ・濱甲子園倶楽部会館や旧鳴尾競馬場本館、各寺社の境内林、枝川土手跡の松林等、地域の歴史的景観資源を適切に保全します。
- ・阪神甲子園球場周辺地域においては、建築物・工作物、広告物の景観誘導や緑化の推進により、賑わいのある商業景観並びに全国から多くの人々が訪れる場所に相応しい風格と魅力あるまちなみを形成します。
- ・阪神鳴尾・武庫川女子大前駅南から武庫川女子大学の周辺地区では、地域住民の生活拠点として、また、大学の街として、賑わいと落ち着きが調和した景観を形成します。
- ・武庫川、甲子園浜の緑と潤いある水辺景観の保全を図ります。



甲子園筋のタイワンプウ並木



鳴尾新川のサクラ並木



甲子園ヨットハーバー



枝川土手跡の松林



鳴尾・武庫川女子大前駅



枝川町のブルーバール

■ 景観構造



凡例

- | | | | | | |
|---|-----------|---|------------|---|-----------|
|  | 市境界 |  | 低層住宅景観エリア |  | 緑豊かな文教地 |
|  | 景観ゾーン界 |  | 中低層住宅景観エリア |  | 眺望ポイント |
|  | 河川軸 |  | 都市型住宅景観エリア |  | (うち地域レベル) |
|  | (うち地域レベル) |  | 商業景観エリア |  | 地域の中心地 |
|  | 道路軸 |  | 産業住宅景観エリア |  | 眺望ポイント |
|  | (うち地域レベル) |  | 流通産業景観エリア |  | (うち地域レベル) |
|  | 海岸軸 |  | 沿道商業景観エリア | | |

■ 景観資源



- | | |
|--------------------------------|--|
| ① 甲子園浜海浜公園 | ⑲ 濱甲子園倶楽部会館 (浜甲子園安心コミュニティプラザ) |
| ② 甲子園ヨットハーバー | ⑳ 武庫大橋 |
| ③ 枝川沿いの親水空間 | ㉑ 武庫川女子大学附属中学校・高等学校芸術館 (旧鳴尾競馬場本館) |
| ④ 武庫川河川敷緑地 | ㉒ 武庫川女子大学 中央キャンパス |
| ⑤ 北郷公園 | ㉓ 阪神甲子園球場 (景観賞) |
| ⑥ 甲子園筋の台湾フウとポプラの並木 | ㉔ 鳴尾・武庫川女子大前駅 |
| ⑦ 武庫川女子大学附属中学校・高等学校周辺のメタセコイア並木 | ㉕ 西宮港大橋 |
| ⑧ 鳴尾新川筋のサクラ並木 | ㉖ 三基商事(株)西宮工場 (景観賞) |
| ⑨ 浜甲子園のクスノキ並木 | ㉗ 甲子園筋のまちなみ |
| ⑩ 枝川町のブルバール (浜甲団地公園) | ㉘ 枝川町戸建住宅A地区のまちなみ (景観重点地区) |
| ⑪ 鳴尾浜臨海公園 | ㉙ 枝川町戸建住宅B地区のまちなみ (景観重点地区) |
| ⑫ 岡太神社の境内林 | ⑳ 武庫大橋から西宮市街への眺望 |
| ⑬ 白山姫神社の境内林 | ㉑ 甲子園浜海浜公園 見晴台からの眺望 |
| ⑭ 鳴尾八幡神社の境内林 | ㉒ 甲子園浜橋からヨットハーバーと六甲山系の山並みへの眺望 |
| ⑮ 等覚寺のクスノキ | ㉓ 甲子園浜橋から自然海浜への眺望 |
| ⑯ 西方寺のイチョウ | ㉔ 阪神高速湾岸線側道 (鳴尾浜・甲子園浜間) から六甲山系を背にした市街地への眺望 |
| ⑰ 善教寺のイチョウ | |
| ⑱ 枝川土手跡のマツ林 | |

(6) 瓦木地域

■ 景観の成り立ち

基盤となる豊かな「自然」

東側を武庫川が、西側を津門川が流下しています。武庫川の三角州にあたるため、平坦地が広がっています。

受け継がれてきた「歴史・文化」

多くは武庫川の氾濫原であったため、本格的な開拓は、武庫川に強固な堤防が築かれた豊臣時代以降で、江戸時代には、度重なる氾濫に見舞われながらも新田開発が進められ、広大な農地が広がり、集落が点在していました。

明治時代に国鉄、大正時代に阪急電鉄神戸線・今津線が開通した後も、引き続き農村集落が広がっていましたが、1920年代後半～1930年代には阪急西宮北口駅周辺において、昭和園、甲風園の住宅地開発や阪急西宮球場の建設が進められ、徐々に市街地が広がっていきました。

昭和初期の JR 甲子園口駅開業後、同駅周辺及び阪急神戸線南側で大規模な区画整理が行われ、街区の整った住宅市街地が形成されました。

現在のわたしたちの「暮らし・営み」

阪神淡路大震災後、阪急西宮北口駅周辺では、北東地区で震災復興の再開や区画整理事業、南地区の再開発事業等により兵庫県立文化芸術センターや再開発ビルの建設等が進められ、防災性の高い都市基盤が整えられました。また、南東地区の西宮球場跡地に、平成 20 年に大型複合商業施設が開業しており、阪急西宮北口駅周辺は、西宮市の都市核となる商業業務施設や文化施設が集中する地域となっています。

現在は地域全体に市街化が進んでいますが、地域北東部にはまとまった農地も残っています。JR 甲子園口駅周辺には小規模店舗が集積する商店街が形成されており、地域南西部には大規模な工場も立地しています。

また、武庫川沿いが風致地区に指定されており、西宮北口駅南地区、西宮北口駅北東地区、西宮北口駅南東地区、甲子園口地区には地区計画が定められています。また、地域北部の農地の多くは生産緑地地区に指定されています。

■ 景観の特徴

地域全体に住宅を主体とした景観が広がるなかにも、地域北東部の農地景観、阪急西宮北口駅周辺の都市核となる商業業務景観、JR 甲子園口駅周辺の地域住民の生活拠点となる商業景観や、地域南西部の工場等の産業景観が見られます。また、住宅景観についても、甲風園や昭和園の石積みや松並木がつくる住宅景観や、住宅市街地のなかに残る旧集落の景観等が、地域の歴史を感じられる変化に富んだ住宅景観をつくり出しています。

また、旧甲子園ホテルや旧新田長次郎邸は地域を代表する景観資源として良好に維持され、周辺の住宅地と一体となって風格ある文教住宅景観をつくり出しています。また、日本百名橋にも選ばれている武庫大橋は、美しいランドマークであり、六甲山系の山並みや市街地の広がりを望むことのできる視点場にもなっています。また、この他にも、巨樹・巨木や境内林は地域の景観のランドマークとなり、河川や道路等の並木は緑の軸となって、地域の景観を特徴づけています。



甲風園・昭和園のまちなみ



武庫川女子大学上甲子園キャンパス
(旧甲子園ホテル【都市景観形成建築物】)



兵庫県立芸術文化センター



武庫大橋

■ 景観の課題

全国一律の量産的な住宅の建て替え等が進められるなかで、地域の歴史がつくってきた多様な住宅景観の魅力が失われつつあります。

一方で、国道2号や山手幹線、中津浜線等の幹線道路沿いには沿道型店舗が増加しており、沿道敷地の緑化や広告景観の形成が求められます。また、地区西部のJR沿線は食品業を中心とする工業施設が集まる産業地区であり、工場敷地周辺の緑化等により住宅地との景観調和が求められます。

■ 景観形成の考え方

景観形成の方向性（テーマ）

- 都市核にふさわしい賑わいと魅力をつくります
- 落ち着きのある緑豊かな住宅地を
まもり、つくり、そだてます
- 農地や川の広がりある風景をまもり、そだてます

配慮の方向性

- ・住宅地における敷地内の緑化や樹木の保全・育成に努めるとともに、甲風園や新堀川沿い、旧集落等の歴史ある住宅地では、庭木や生垣、石積み等が連なる歴史と潤いを感じられる緑豊かな住宅景観を継承します。
- ・工業施設が集まる産業地区では、工場敷地周囲の緑化等により周辺との景観調和を図ります。
- ・緑の軸となる武庫川・津門川、新堀川等の河川沿いの並木や、まとまりのある緑の拠点となる公園の緑や主要幹線道路の並木を適切に維持管理し、緑豊かなまちなみを保全・育成します。
- ・西宮北口周辺では、街路や駅前広場等の公共空間のデザインの充実を図り、西宮の都市核として玄関口にふさわしい、統一感のある良好な景観形成を進めます。
- ・旧甲子園ホテルや旧新田長次郎邸、武庫大橋等の歴史的建造物や、ランドマークとなる境内林や樹林、巨樹を適切に保全するとともに、これらとの見通しや眺望を保全します。
- ・建築物、工作物、屋外広告物等は、武庫大橋や山手大橋等からの眺望景観に配慮した配置、規模、色彩等として、眺望景観の保全を図ります。
- ・国道2号や山手幹線、中津浜線等の幹線道路については、道路や沿道敷地の緑化を推進するとともに、屋外広告物の誘導を図りながら、路線ごとの特徴のある景観の形成を図ります。



松山大学温山記念会館
(旧新田長次郎邸)【都市景観形成建築物】



新堀川沿いのサクラ並木と護岸の石垣



せせらぎの道



瓦林公園のバラ園

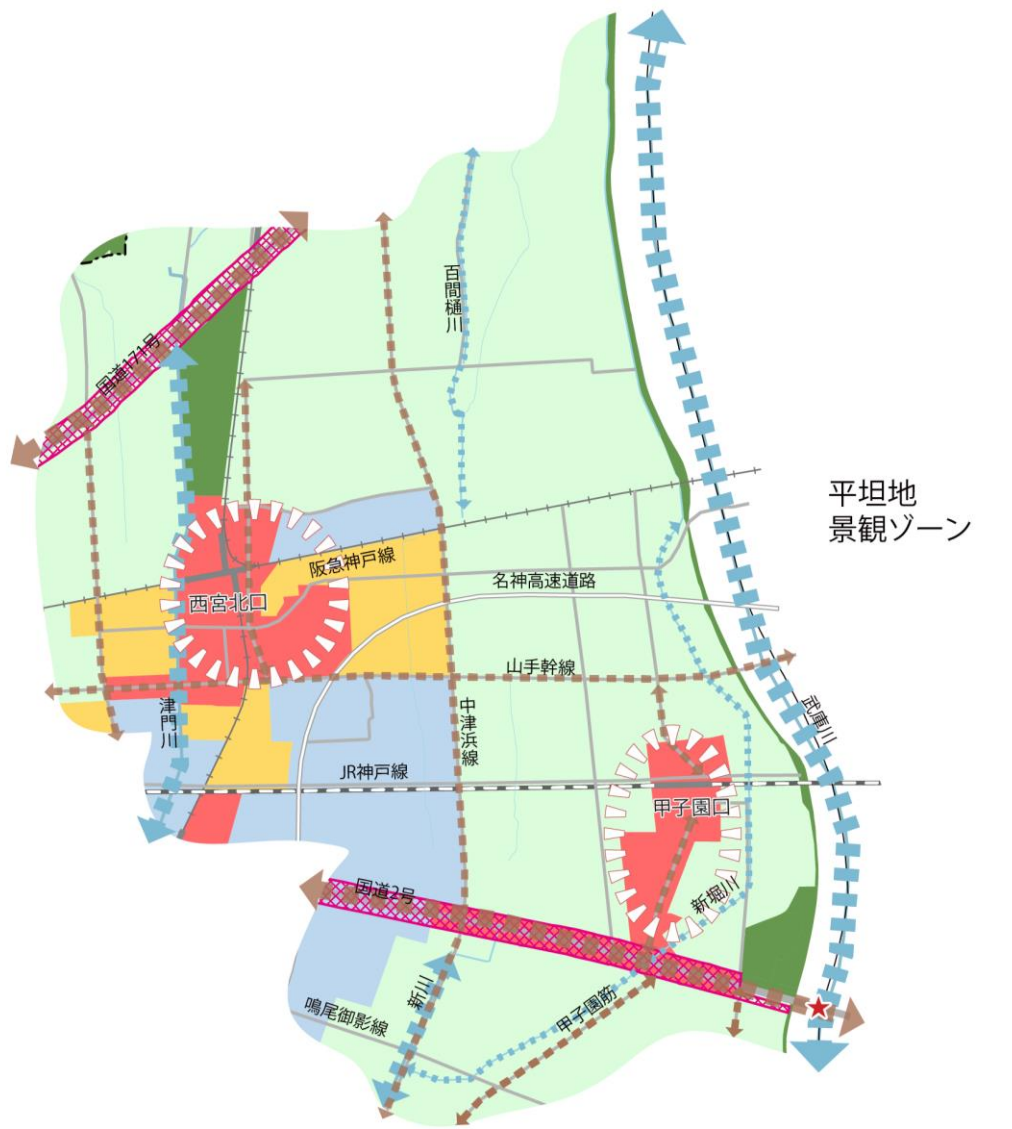


武庫川川辺のクスノキ群




甲子園八幡神社の境内林

■ 景観構造



凡 例

- | | | | | | |
|---|-----------|---|------------|--|--------|
|  | 市境界 |  | 低層住宅景観エリア |  | 景観拠点 |
|  | 景観ゾーン界 |  | 中低層住宅景観エリア |  | 地域の中心地 |
|  | 河川軸 |  | 都市型住宅景観エリア |  | 眺望ポイント |
|  | (うち地域レベル) |  | 商業景観エリア | | |
|  | 道路軸 |  | 産業住宅景観エリア | | |
|  | (うち地域レベル) |  | 沿道商業景観エリア | | |

■ 景観資源



- | | |
|---------------------|--------------------------------------|
| ① せせらぎの道 | ⑮ 高木東熊野神社の境内林 |
| ② 武庫川河川敷緑地 | ⑯ 熊野神社の境内林 |
| ③ 高木公園 | ⑰ 厳島神社の境内林 |
| ④ 松並公園 | ⑱ 御代開公園のクスノキ |
| ⑤ 瓦林公園のバラ園 | ⑲ 武庫大橋 |
| ⑥ 津門川沿いのヤナギ並木 | ⑳ 武庫川女子大学 上甲子園キャンパス (旧甲子園ホテル等) (景観賞) |
| ⑦ 新堀川沿いのサクラ並木 | ㉑ 松山大学温山記念会館 (旧新田長次郎邸) |
| ⑧ 甲風園名残のマツ並木 | ㉒ 兵庫県立芸術文化センター |
| ⑨ 四十谷川沿いのヤナギ並木 | ㉓ 甲南大学西宮キャンパス 西宮CUBE棟 (景観賞) |
| ⑩ 県道606号のクスノキ・ケヤキ並木 | ㉔ 阪急西宮ガーデンズ (景観賞) |
| ⑪ 高松町のユリノキ並木 | ㉕ 甲子園口駅 |
| ⑫ 日野神社の境内林 | ㉖ 西宮北口駅およびその周辺のまちなみ |
| ⑬ 甲子園八幡神社の境内林 | ㉗ 甲風園、昭和園のまちなみ |
| ⑭ 高木八幡神社の境内林 | ㉘ 甲子園筋のまちなみ |
| | ㉙ 武庫大橋から西宮市街への眺望 |

(7) 甲東地域

■ 景観の成り立ち

基盤となる豊かな「自然」

北部は甲山を中心としたなだらかな前山の丘陵が続き、東部を武庫川、北部をその支流の仁川が流下します。概ね北部の丘陵から上ヶ原台地、平坦地へと段状に下る地形となっています。

受け継がれてきた「歴史・文化」

甲山山麓に広がる丘陵地帯にある上ヶ原台地は、江戸時代初期に、仁川上流から上ヶ原用水が引かれ、上ヶ原新田が拓かれました。また、江戸時代には、京と西国を結ぶ西国街道、西宮と小浜宿（宝塚市）を結ぶ西宮街道の各街道沿いを中心に集落が点在していました。

大正時代から昭和初期には、阪急今津線沿線の甲東園駅前や仁川沿いで宅地開発が進められ、昭和に入ると、関西学院大学、聖和女子大学、神戸女学院が相次いで上ヶ原に移転しました。戦後、果樹園が広がる上甲東園で住宅地開発が進められるとともに、文教施設が数多く集積しました。このため、昭和33年に全国二番目の文教地区に指定され、文教住宅都市西宮の礎となりました。

現在のわたしたちの「暮らし・営み」

住宅を主体とした土地利用となっていますが、上ヶ原地区には関西学院大学、神戸女学院大学等の文教施設の集積がみられ、また、現在も地域内には多くの農地が残る等、田園地帯の面影も残っています。阪急甲東園駅周辺や阪急門戸厄神駅周辺には商業施設の集積がみられ、また、阪急甲東園駅周辺には行政サービス施設が立地する等、地域の中心的な地区となっています。

法規制では、上ヶ原の文教地区に加え、甲山周辺、上ヶ原台地の関西学院大学、神戸女学院周辺から仁川周辺、門戸厄神周辺及び武庫川沿いが風致地区に指定されています。仁川五ヶ山地区に地区計画が定められており、関西学院周辺地区は地区計画を定めるとともに、本市で初めてとなる景観地区に指定されています。また、地域内の農地の多くは生産緑地地区に指定されています。

■ 景観の特徴

甲山から関西学院大学や神戸女学院のキャンパスが立地する上ヶ原台地、平坦地へと連なる段状の地形は、住宅地開発に適すと同時に、ランドマークである甲山を際立たせ、文教住宅都市西宮を代表する景観をつくり出しています。

石積みや庭木が連なる住宅地と緑豊かな大学等の文教施設が一体となった文教住宅景観をはじめ、甲山山麓部の自然緑地や仁川、武庫川等の水辺空間等による水と緑にあふれた自然景観、参拝客で賑わう神呪寺や門戸厄神等の社寺境内地の景観、市街地内に残る農地と住宅がおりなす田園都市景観等、地域の歴史・文化・自然を反映したさまざまな景観が見られることが特徴となっています。また、市域のランドマークとなる甲山は、学園花通りをはじめ、当地域の各所から望むことができ、当地域の景観を特徴づけるものにもなっています。



甲山



上甲東園のまちなみ



東光寺（門戸厄神）の境内林



上ヶ原用水路

■ 景観の課題

ランドマークである甲山の麓への住宅開発が見られるなかで、スカイラインだけでなく山麓まで含めた山容を保全し、甲山への良好な眺望景観を保全することが求められます。

住宅地においては、低層の良好な住宅地において、大規模宅地の細分化や共同住宅化が見られ、低層主体の住宅景観が変化してきています。また、農地の宅地化が進む中で、広がりのある農地の保全や宅地化にあたっての周辺景観との調和への配慮が求められます。

さらに、国道 171 号、中津浜線沿いについては、緑も乏しく、沿道の屋外広告物や建築物の突出した色彩等が景観を阻害している場所も見られます。

■ 景観形成の考え方

景観形成の方向性（テーマ）

- 川や農地の広がりある風景と、
甲山の眺望をまもります
- 落ち着いたある緑豊かな住宅地を
まもり、つくり、そだてます
- 学園街の雰囲気をつくり、いかしたまちなみをつくります

配慮の方向性

- ・上甲東園や仁川等の歴史ある住宅地では、石積みと生垣・庭木が連なる緑豊かな住宅景観を保全するとともに、これらと調和したまちなみの形成を図ります。
- ・まとまった農地が残る地区では、農地の保全に努め、農地と住宅が調和した田園景観を育成し、緑に包まれた魅力的な都市景観を創出します。
- ・緑の軸を形成する学園花通りのサクラ並木、くすのき通り等の並木や、まとまりのある緑の拠点となる武庫川や甲山森林公園、甲東梅林等の公園、緑地等の緑を適切に維持管理し、緑豊かなまちなみを保全育成します。
- ・関西学院や神戸女学院等の校舎群をはじめ、上ヶ原用水や大阪城石垣石丁場跡、厄神道標等、地域の歴史を物語る景観資源を保全し、これらとの周辺景観の調和を図ります。
- ・地域内各所のみならず、市内各所からの甲山への眺望を保全するため、甲山の植生の保全等を通じた山容の保全を図るとともに、周辺地域における建築物や工作物、屋外広告物等の配置、規模、色彩等に配慮します。
- ・ランドマークとなる境内林や樹林、巨樹を保全するとともに、これらへの見通しや眺望を保全します。
- ・国道 171 号、中津浜線沿いについては、道路や沿道敷地の緑化を推進するとともに、建築物や屋外広告物の色彩等にも配慮し、潤いがある整った沿道景観を形成します。



大坂城石垣石丁場跡 東六甲石丁場跡



武庫川沿いのマツ並木



上甲東園のクスノキ並木



北山貯水池

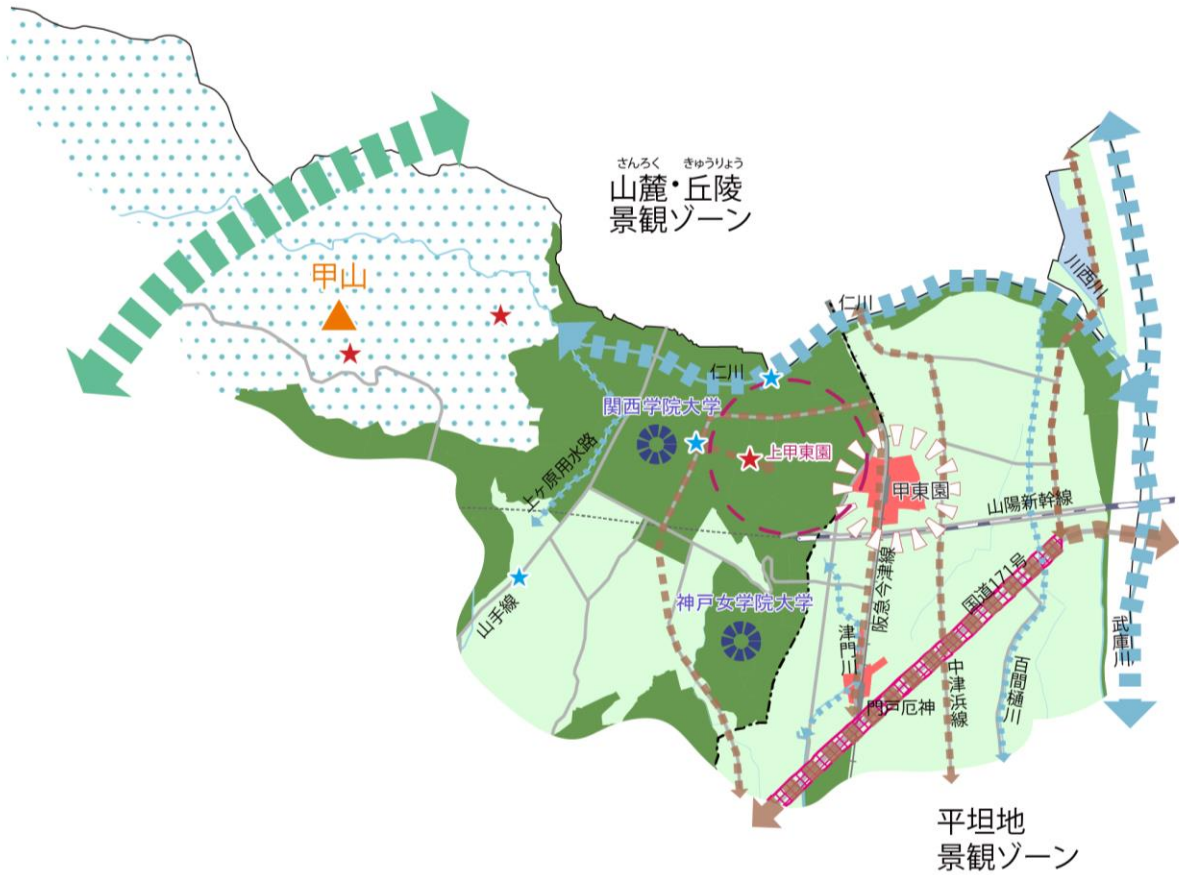


上甲東園 1 号緑地



甲東梅林

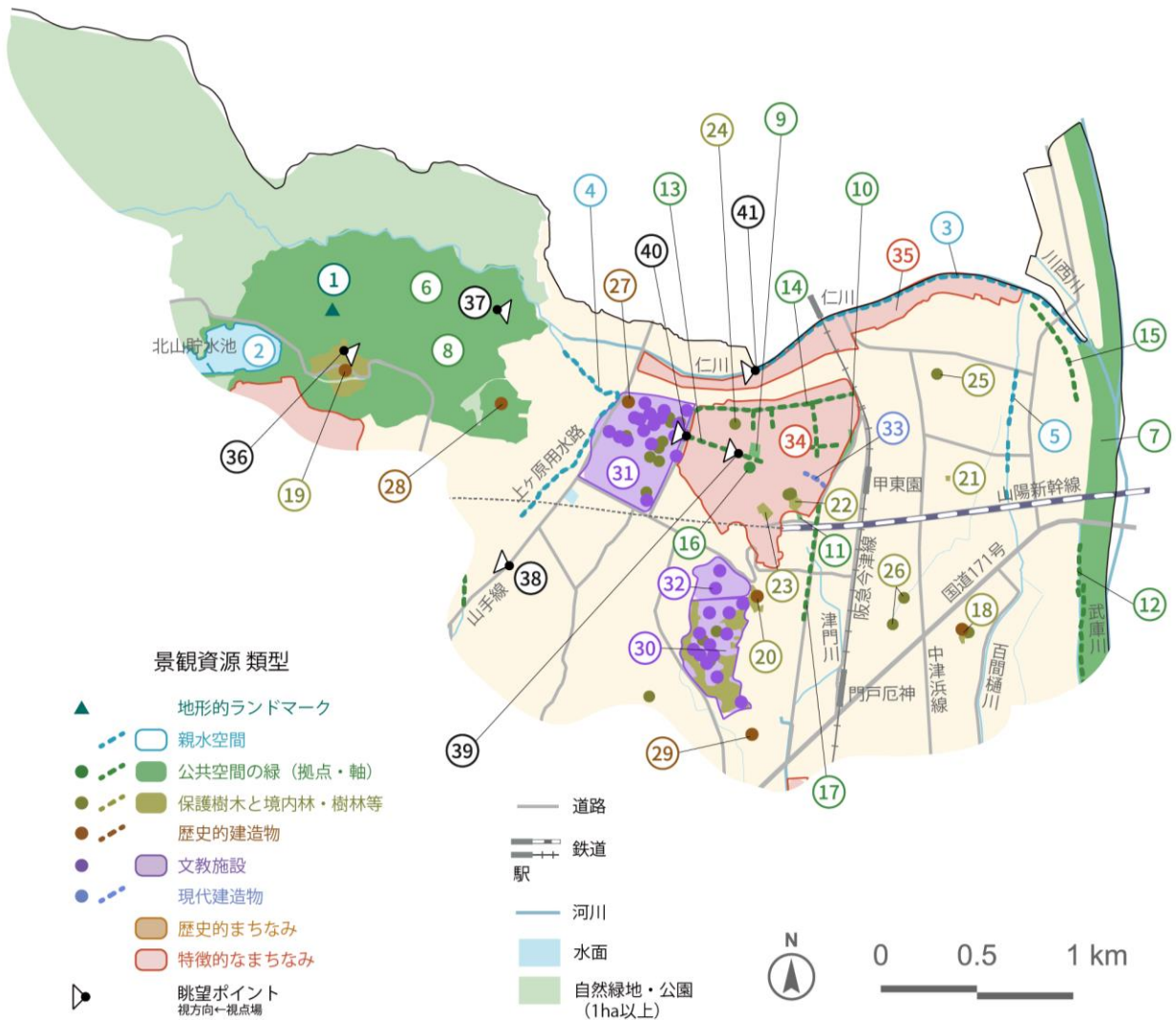
■ 景観構造



凡例

- | | | | |
|--|-----------|--|------------|
| | 市境界 | | 自然景観エリア |
| | 景観ゾーン界 | | 低層住宅景観エリア |
| | 河川軸 | | 中低層住宅景観エリア |
| | (うち地域レベル) | | 商業景観エリア |
| | 道路軸 | | 産業住宅景観エリア |
| | (うち地域レベル) | | 沿道商業景観エリア |
| | 山並み軸 | | |
| | 景観核 | | 景観拠点 |
| | ランドマーク | | 緑豊かな文教地 |
| | 眺望ポイント | | 地域の中心地 |
| | (うち地域レベル) | | モデルとなる住宅地 |

■ 景観資源



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|---------|------|----------|-----------|--------|------------|--------------|--------|------------|------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------------|-----------------|-----------------------|---------------|-----------------|--------------|-------------|--------------|--------------|-----------|--------------------|------------|---------------------|--------|----------------|--------------------------------|----------------------|------------|---------------|-------------|------------------|------------------------|------------------------|----------------------|------------------|--------------|
| ① 甲山 | ② 北山貯水池 | ③ 仁川 | ④ 上ヶ原用水路 | ⑤ 百間樋川遊歩道 | ⑥ 甲山湿原 | ⑦ 武庫川河川敷緑地 | ⑧ 兵庫県立甲山森林公園 | ⑨ 甲東梅林 | ⑩ 上甲東園1号緑地 | ⑪ 上甲東園3号緑地 | ⑫ 新堀川沿いのサクラ並木 | ⑬ 学園花通りのサクラ並木 | ⑭ 上甲東園のクスノキ並木 | ⑮ 一里山町のサクラ並木 | ⑯ 兵庫県立西宮高等学校のメタセコイヤ | ⑰ 神呪寺のサクラ・ケヤキ並木 | ⑱ 大市八幡神社の本殿と大クスなどの境内林 | ⑲ 神呪寺の仁王門と境内林 | ⑳ 東光寺(門戸厄神)と境内林 | ㉑ 若宮八幡神社の境内林 | ㉒ 門戸天神社の境内林 | ㉓ 神呪厳島神社の境内林 | ㉔ 甲陵中学校のユーカリ | ㉕ 西廣寺のエノキ | ㉖ 下大市 旧西国街道沿いのクスノキ | ㉗ 関西学院構内古墳 | ㉘ 大坂城石垣石丁場跡 東六甲石丁場跡 | ㉙ 厄神道標 | ㉚ 神戸女学院の校舎群と樹林 | ㉛ 関西学院大学 上ヶ原キャンパスの校舎群と樹林 (景観賞) | ㉜ 関西学院大学 聖和キャンパスの校舎群 | ㉝ 上甲東園石段階段 | ㉞ 上甲東園の住宅まちなみ | ㉟ 仁川沿いのまちなみ | ㊱ 神呪寺から市街地を見渡す眺望 | ㊲ 甲山森林公園展望台から市街地を見渡す眺望 | ㊳ 苦楽園、甲陽園の住宅地一帯を見上げる眺望 | ㊴ 学園花通りから関西学院と甲山への眺望 | ㊵ 関西学院正門から甲山への眺望 | ㊶ 翁橋から甲山への眺望 |
|------|---------|------|----------|-----------|--------|------------|--------------|--------|------------|------------|---------------|---------------|---------------|--------------|---------------------|-----------------|-----------------------|---------------|-----------------|--------------|-------------|--------------|--------------|-----------|--------------------|------------|---------------------|--------|----------------|--------------------------------|----------------------|------------|---------------|-------------|------------------|------------------------|------------------------|----------------------|------------------|--------------|

(8) 塩瀬地域

■ 景観の成り立ち

基盤となる豊かな「自然」

南に六甲山系、中央から北に北摂山系が広がる山地を主体とした地域です。地域東端には武庫川が流れ、その支流である名塩川と太多田川が山間の谷間を流れています。

受け継がれてきた「歴史・文化」

塩瀬地域には、旧生瀬村と旧名塩村があり、生瀬村は、古くから大阪や京都と有馬温泉や播磨・但馬へ通ずる街道筋の宿駅として栄え、名塩村は、江戸時代から藩札やふすま紙に広く使われた名塩和紙が生産され、繁栄を誇っていました。しかし、生瀬村は明治 31 年に鉄道が開通したことにより、名塩村も戦後の紙生産の機械化と和紙需要の低迷により、農村集落へと推移しました。

昭和 30 年代から 40 年代には、都市への人口流入に伴い、当地域においても名塩山荘や名塩ガーデンをはじめとした住宅地開発が行われ、昭和 50 年代には住宅都市整備公団（現在のUR都市機構）による名塩ニュータウン等の大規模な宅地開発が始まり、昭和 61 年のJR西宮名塩駅設置により、大阪方面への通勤圏の住宅地として飛躍的に発展してきました。

現在のわたしたちの「暮らし・営み」

豊かな自然に恵まれた地域であり、武庫川・名塩川沿いの谷間には、中国自動車道、国道 176 号の幹線道路が整備され、その両側の山麓部には旧集落や大規模な住宅団地が広がっています。JR西宮名塩駅周辺には地域住民の生活拠点となる商業施設や行政サービス施設が整備されています。また、北部には、武庫川溪谷や武田尾温泉、ゴルフ場等のレクリエーション資源が見られます。

また、地区の約 7 割が市街化調整区域であり、住宅地である名塩ニュータウン地区、名塩平成台地区、名塩南台地区、西宮名塩さくら台地区、宝生ヶ丘地区には地区計画が定められています。また、宝生ヶ丘地区ではまちづくり協定も締結されています。

■ 景観の特徴

北摂山系、六甲山系の山並みが豊かな自然景観を形成し、名塩川が削る東西方向の谷間には、中国自動車道及び国道 176 号が走って河川・道路の景観軸となっています。

この谷間には、古くからの歴史・文化を伝える旧集落や農地と、新たに開発された大規模住宅地が位置し、周囲の山林と新旧の住宅景観が融和した景観が広がっています。

今も残る茅葺民家等の歴史的な建築物や石積等がまちなみのアクセントになるとともに、寺社の境内林や巨樹が地域のランドマークとなっています。一方で、住宅開発地では、低層を中心とした家並みと庭木や生垣が連なり、基盤の整った良好なまちなみ景観が形成されています。また、なかでも創造の丘ナシオンの高低差 60m の斜行エレベーターは、全国的にも類例の少ない特徴的な景観を作り出しています。



東山台のまちなみ



創造の丘ナシオンの斜行エレベーター



木之元の旧集落景観



名塩八幡神社の境内林

■ 景観の課題

歴史的な建築物等の建て替えが進み、古くからの集落景観が変容するとともに、耕作放棄地等が増加し、田園景観が変容してきています。また、住宅団地についても、今後の建築物の更新が進むことが予想されるなかで、外構の緑化や適切な維持管理等によって将来にわたって良好な住宅景観を保全・継承することが求められます。

さらに、名塩ニュータウン地区北部等には、斜面地へのソーラーパネルの設置が相次いでおり、住宅地等からの景観を阻害しているケースが見られます。

■ 景観形成の考え方

景観形成の方向性（テーマ）

- 自然の水辺と緑、田園風景をまもり、そだてます
- 山の斜面緑地をいかし、
これに調和したまちなみをつくります
- 旧街道沿いを中心とする歴史的背景を
まもり、つたえます

配慮の方向性

- ・名塩旧集落、木之元旧集落や JR 生瀬駅前街道筋では、寺社や古民家等の歴史的な建築物等や農地の保全に努めるとともに、建築物の建築等にあたっては、周辺のまちなみや自然との調和に配慮し、歴史的なまちなみやのどかな田園景観の保全、継承を図ります。
- ・住宅団地においては、街路樹等の公的空間の緑化や適切な維持管理を行うとともに、民有地においても庭木・生け垣等の外構の緑化や適切な維持管理を行い、山並みと調和した緑豊かな住宅景観を将来にわたって継続的に保全・育成していきます。
- ・景観の軸となる太多田川、名塩川等の河川や、寺社の境内林等のまとものある緑等の環境を保全し、緑豊かで潤いのある景観の維持に努めます。
- ・ランドマークとなる境内林や樹林、巨樹を保全するとともに、これらへの目通しや眺望を保全します。
- ・建築物、工作物、屋外広告物等は、塩瀬中央公園や名塩八幡神社等からの眺望景観に配慮した配置、規模、色彩等として、眺望景観の保全を図ります。
- ・ソーラーパネルの設置にあたっては、緑化による遮蔽等の措置を講じる等、周辺からの見え方に配慮します。
- ・山の緑や風土に合った色合いや材料による地域特性をいかしたのびやかな景観形成を図ります。



生瀬駅の街道景観



名塩のまちなみ



名塩南台から望む住宅景観



森興橋からの眺め

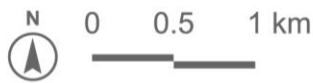


武田尾橋



ナシオン広場

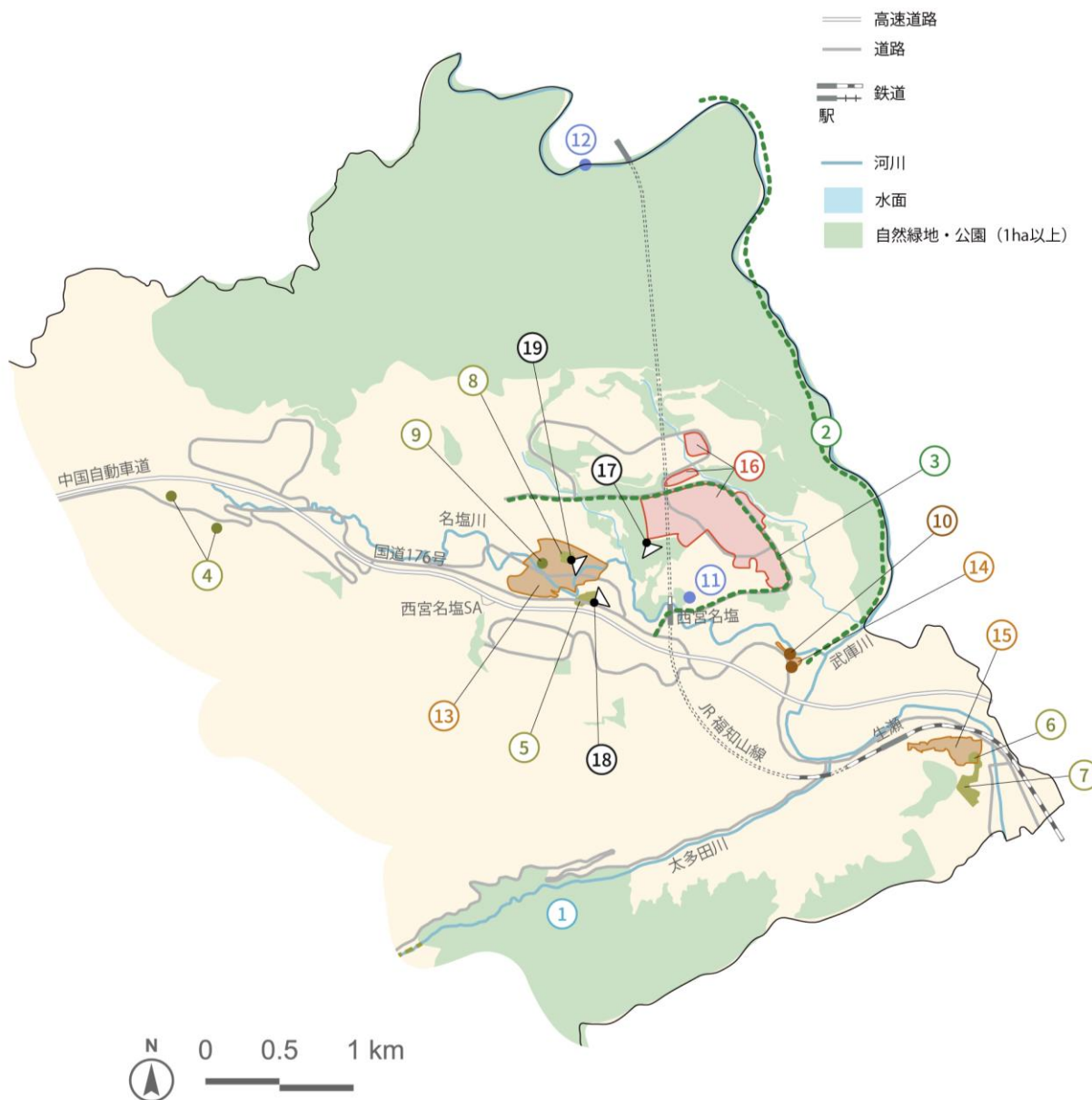
■ 景観構造



凡例

- | | | | |
|--|------------------|--|------------|
| | 市境界 | | 沿道商業景観エリア |
| | 景観ゾーン界 | | 低層住宅景観エリア |
| | 河川軸
(うち地域レベル) | | 中低層住宅景観エリア |
| | 道路軸
(うち地域レベル) | | 商業景観エリア |
| | 山並み軸 | | 流通産業景観エリア |
| | 景観拠点 | | 眺望ポイント |
| | 地域の中心地 | | (うち地域レベル) |

■ 景観資源



景観資源 類型

- | | | |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ▲ 地形的ランドマーク □ 親水空間 ● 公共空間の緑 (拠点・軸) ● 保護樹木と境内林・樹林等 ● 歴史的建造物 ● 文教施設 ● 現代建造物 ● 歴史的まちなみ ● 特徴的なまちなみ ▶ 眺望ポイント
視方向 ← 視点場 | <ul style="list-style-type: none"> ① 蓬萊峡 ② 武庫川溪谷 ③ 東山台桜通りのサクラ並木 ④ 名塩東久保の棚田景観 ⑤ 名塩八幡神社の境内林 ⑥ 生瀬皇太神社の境内林 ⑦ 生瀬万燈籠山林 ⑧ 教行寺の境内林 ⑨ 教蓮寺のゴヨウマツ ⑩ 芝辻崇邸 ⑪ 創造の丘ナシオンの斜行エレベーター ⑫ 武田尾橋 | <ul style="list-style-type: none"> ⑬ 名塩の旧集落景観 ⑭ 木之元の旧集落景観 ⑮ 生瀬宿の旧街道景観 ⑯ 創造の丘ナシオン 東山台・国見台のまちなみ ⑰ 塩瀬中央公園から南方向への眺望 ⑱ 名塩八幡神社社叢上部から北東への眺望 ⑲ 教行寺周辺からの眺望 |
|--|--|--|

(9) 山口地域

■ 景観の成り立ち

基盤となる豊かな「自然」

南に六甲山系、北東に北摂山系が広がる山地を主体とした地域です。地域内には、武庫川水系の有馬川と船坂川が流れ、それらの河川沿いに谷筋や平地が広がっています。また、昭和 53 年に水源地としてつくられた金仙寺湖や、その湖畔には地域のランドマークとなる丸山があります。さらに、南部には蓬莱峡や白水峡といった自然資源もみられます。

受け継がれてきた「歴史・文化」

山口は、古くから名湯として知られた有馬温泉と大阪、丹波、播磨をつなぐ街道筋に形成され、古墳時代に既に集落が営まれており、平安時代の古文書の記録には公智神社の名も見られます。

安土桃山時代に村落が形成されるようになり、16 世紀末には農林業を営む五ヶ所村(名来村、下山口村、上山口村、中野村、船坂村)が存在していました。

昭和 50 年代に入り、中国自動車道が開通して西宮北インターチェンジが設けられたことにより、流通産業団地が立地するとともに、土地区画整理事業をはじめとした大規模な宅地開発が進められ、大阪・神戸への通勤圏の住宅地として発展してきました。

現在のわたしたちの「暮らし・営み」

山林や農地が広がる豊かな自然に恵まれた地域です。有馬川や船坂川、太多田川沿いには古くからの旧集落があり、山口センター周辺の丘陵には大規模な住宅団地や流通産業団地等が広がっています。西宮北インターチェンジから国道 176 号沿道には沿道型商業施設が集積しています。

また、市街化調整区域が地区の 7 割を占めており、南部の山地は瀬戸内海国立公園に指定されています。住宅地である北六甲台地区、上山口・丸山地区、すみれ台地区に地区計画が定められています。

■ 景観の特徴

北摂山系、六甲山系の山林や自然緑地、河川軸となる有馬川、船坂川、金仙寺湖等の水辺空間等、水と緑にあふれた景観が見られます。それらの河川がつくる谷間には、旧集落の石垣、庭木、民家の連なる街道筋の景観を今にとどめるとともに、広大な農地や山あいの旧集落景観が見られます。中国自動車道の周辺には、大規模住宅地や計画的かつ緑豊かな新しい住宅市街地の景観や、流通産業団地による産業景観が形成されています。

このようななかであって、公智寺社の境内林や巨樹等が緑の拠点となって、地域の景観に潤いを与えるとともに、丸山は地域のランドマークとなって地域内の各所から望むことができます。



丸山



山口町の旧集落景観



船坂地区の旧集落景観



公智神社・光明寺の境内林

■ 景観の課題

歴史的な建築物等の建て替えが進み、古くからの旧集落景観が変容するとともに、耕作放棄地等が増加し、田園景観も変化してきています。

道路沿道等で資材置き場や沿道型店舗が増加し、土地利用の転換と混在が進んでいます。特に、国道 176 号沿いでは、沿道型店舗の屋外広告物の乱立等が見られます。

■ 景観形成の考え方

景観形成の方向性（テーマ）

- 自然の水辺と緑をまもり、そだてます
- 山並みと田園風景に調和した
まちなみをつくります
- 旧街道沿いを中心とする歴史的背景を
まもり、つたえます

配慮の方向性

- ・上山口、下山口、船坂、中野、名来の旧集落では、古民家等の歴史的建築物、石垣等の外構のしつらえや農地の保全に努めるとともに、建築物の建築等にあたっては、周辺のまちなみや自然との調和に配慮し、歴史的なまちなみやのどかな田園景観の保全、継承を図ります。
- ・住宅団地においては、街路樹等の公的空間の緑化や適切な維持管理を行うとともに、民有地においても庭木・生け垣等の外構の緑化や適切な維持管理を行い、山並みや田園と調和した緑豊かな住宅景観を将来にわたって継続的に保全・育成していきます。
- ・景観の軸となる有馬川、船坂川等の河川や有馬川緑道、寺社の境内林等のまとまりのある緑や水辺空間を保全し、緑豊かで潤いのある景観を維持します。
- ・ランドマークとなる境内林や樹林、巨樹を保全するとともに、これらへの眺めを保全します。
- ・建築物、工作物、屋外広告物等は、金仙寺湖や公智神社参道等から丸山・畑山への眺望景観に配慮した配置、規模、色彩等として、眺望景観の保全を図ります。
- ・丸山貯水池、金仙寺湖と丸山ならびに周辺の山林が一体となって形成する緑豊かな水辺空間を保全します。
- ・蓬莱峡、白水峡の特徴的な自然景観を保全し、それらを観光資源としてより一層活用できるよう、視点場の整備・検討や当地域の景観資源との連携等、周辺地域も含めた各種整備や取組を推進します。
- ・国道 176 号の沿道商業景観エリアについては、街路樹や沿道敷地の緑化を推進するとともに、建築物や屋外広告物の色彩等にも配慮し、周辺の住宅景観や自然景観と調和した景観を形成します。
- ・山の緑や風土に合った色合いや材料による地域特性をいかしたのびやかな景観形成を図ります。



丸山貯水池（金仙寺湖）



名来神社の境内林



船坂山王神社



名来対岸の農地

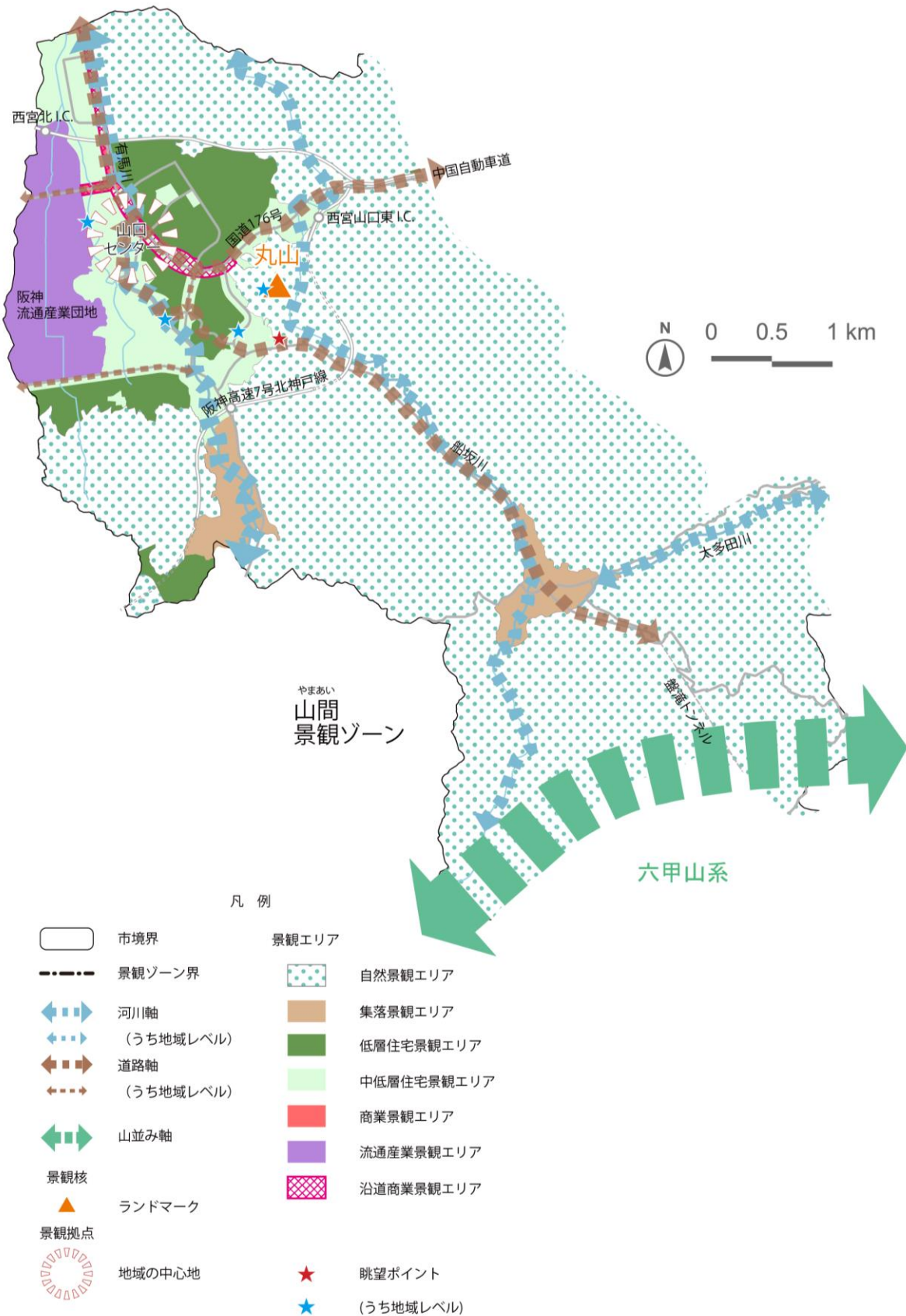


有馬川緑道



蓬莱峡

■ 景観構造



■ 景観資源

